



未来をつむぐ、伝統をつくる。

Okinawa  
Prefectural  
University of Arts

沖縄県立芸術大学  
大学案内 2026

# Contents

- 01 学長あいさつ
- 02 建学の理念／沿革
- 03 大学の教育研究上の目的／3つのポリシー
- 04 大学組織／在学生数
- 05 教員名簿／教職員数
- 06 教育組織・教育分野・研究領域／学年暦
  
- 08 **美術工芸学部**
- 10 絵画専攻（油画分野・日本画分野）
- 12 彫刻専攻
- 14 芸術学専攻
- 16 デザイン専攻
- 18 工芸専攻（染分野・織分野・陶芸分野・漆芸分野）
- 22 卒業・修了作品展／卒業・修士論文発表会
- 23 美術工芸学部の地域貢献
  
- 24 **音楽学部**
- 26 音楽表現専攻（声楽コース・ピアノコース・弦楽コース・管打楽コース・作曲理論コース）
- 32 音楽文化専攻（沖縄文化コース・音楽学コース）
- 34 琉球芸能専攻（琉球古典音楽コース・琉球舞踊組踊コース）
- 36 奏楽堂／定期公演
- 37 音楽学部の地域貢献
  
- 38 **全学教育センター**
- 38 全学教育科目・おきげい教養講座・資格課程
  
- 40 **大学院**
- 40 造形芸術研究科 修士課程
- 42 音楽芸術研究科 修士課程
- 44 芸術文化学研究科 博士課程
  
- 45 芸術文化研究所
- 46 附属図書・芸術資料館
- 47 施設紹介
- 48 国際交流
- 50 卒業後の進路／主な就職先
- 52 活躍する卒業生
- 53 学費・奨学金
- 54 学生生活サポート
- 55 沖芸祭／オープンキャンパス
- 56 入試案内
- 57 アクセスマップ



## 学長あいさつ

Message from the President

沖縄県立芸術大学は、かつて海洋国家として栄えた琉球國の由緒ある地、首里に1986年に開学して以来、今年で41年目を迎えます。本学の建学の精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展はもとより、新たな芸術創造の可能性を広げ、地域ひいては世界の芸術文化の向上発展に寄与できる人材の育成を教育の理念に掲げています。

自由な精神を礎とした創造行為は優れて人間らしい営為であり、先史の洞窟画や縄文の造形が物語るように、それは原始太古より人類の生活と共にありました。そして、今日の高度情報社会からAIやロボットの活用が進む超スマート社会に向けて、今後、人間の強みを発揮しなければならない機会が増え、いっそう人には豊かな感性や自然観、変化に対する好奇心や柔軟な発想力が求められます。また、DX、ポストコロナという大きな時代の転換期にある今、芸術など人間の創造力により生み出され発展してきた分野には、今まで以上に社会的役割が期待されると同時に、それに携わる者には責任ある場面も増してくることでしょう。

本学は、そのような次代を担う豊かな人間性と社会性、国際的視野を備えた芸術分野の専門家として、幅広く社会で活躍できる人材の育成を念頭に、個性の伸長を期して少人数教育による学生本位の教育を行ってまいります。その中で、多様な価値観への理解と、多角的な視点の獲得を共に目指します。

今後も社会のデジタルシフトは不可逆的に加速し、世界の平準化は進むばかりです。だからこそ、自らの抛って立つ文化を認識し、芸術の多様性、独創性の源泉である先入観に囚われない健全な批判的精神を、生涯を通して更新し続けたいものです。

世界的な遺跡が散在するこの美しい南の島には、大交易時代から現代に至るまで異文化を受容し個性ある優れた文化芸術を創造してきた歴史と、都市部にあっても大自然の変化を間近に感じることができる得がたい環境があります。この沖縄の歴史と環境は自ずと、芸術と共に人生を歩んで行くのに必要な柔軟で強かな精神を育んでくれるに違いありません。

2026年4月

沖縄県立芸術大学長  
波多野 泉

# 建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容を持つものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

# 沿革

昭和61年	3月 31日	一般教育棟・管理棟竣工
昭和61年	4月 1日	沖縄県立芸術大学開学 初代学長 山本正男 就任
昭和62年	11月 4日	沖縄県立芸術大学芸術振興財団設立許可
昭和63年	3月 17日	美術棟竣工
昭和63年	10月 7日	登り窯竣工（工芸専攻）
平成元年	3月 26日	体育館竣工
平成2年	3月 26日	第1回卒業式
平成2年	4月 1日	音楽学部設置
平成2年	5月 8日	音楽棟竣工
平成2年	5月 15日	開学5周年・音楽学部開設記念式典開催
平成5年	4月 1日	大学院修士課程造形芸術研究科設置
平成6年	4月 1日	大学院修士課程音楽芸術研究科設置
平成6年	7月 31日	附属図書・芸術資料館竣工
平成7年	3月 31日	奏楽堂竣工
平成7年	4月 1日	美術工芸学部美術学科芸術学専攻開設
平成8年	4月 1日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科設置
平成8年	5月 15日	開学10周年記念式典開催
平成8年	10月 15日	第2代学長 阿部公正 就任
平成9年	3月 31日	福利厚生棟竣工
平成10年	3月 31日	附属研究所棟竣工
平成14年	10月 15日	第3代学長 大嶺實清 就任
平成15年	7月 10日	第4代学長 朝岡康二 就任
平成16年	4月 1日	音楽学部音楽学科邦楽専攻を琉球芸能専攻に改称
平成16年	4月 1日	音楽芸術研究科舞台芸術専攻邦楽専修を琉球古典音楽専修に、楽劇専修を琉球舞踊組踊専修に改称
平成18年	7月 18日	第5代学長 宮城篤正 就任
平成18年	10月 1日～10月31日	開学20周年記念事業「平和祈念公園芸術祭」開催
平成22年	7月 18日	第6代学長 佐久本嗣男 就任
平成23年	11月 17日～11月27日	開学25周年記念事業「沖縄・タイ国際交流美術展」開催
平成23年	3月 31日	デザイン・中央棟、工芸棟、彫刻棟竣工
平成23年	10月 1日	首里崎山キャンパス開設式
平成24年	4月 1日	デザイン工芸学科工芸専攻に漆芸分野開設
平成24年	4月 1日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科に芸術表現（実技系）領域を開設
平成26年	7月 18日	第7代学長 比嘉康春 就任
平成28年	4月 1日	音楽学部を音楽表現、音楽文化、琉球芸能の3専攻に再編 音楽文化専攻に沖縄文化コースを開設
平成28年	9月 22日	開学30周年記念式典開催
令和2年	4月 1日	第8代学長 波多野泉 就任
令和3年	4月 1日	公立大学法人沖縄県立芸術大学 設立

# 大学の教育研究上の目的

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。（学則第1条）

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第1条）

## 大学の3つのポリシー

### ■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
- 2 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
- 3 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 4 1から3までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探究し、解決する能力を身につけている。

### ■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるように、4年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

### ■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

#### 1 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力量を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

#### 2 本学の求める人物像

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

#### 3 入学者選抜区分

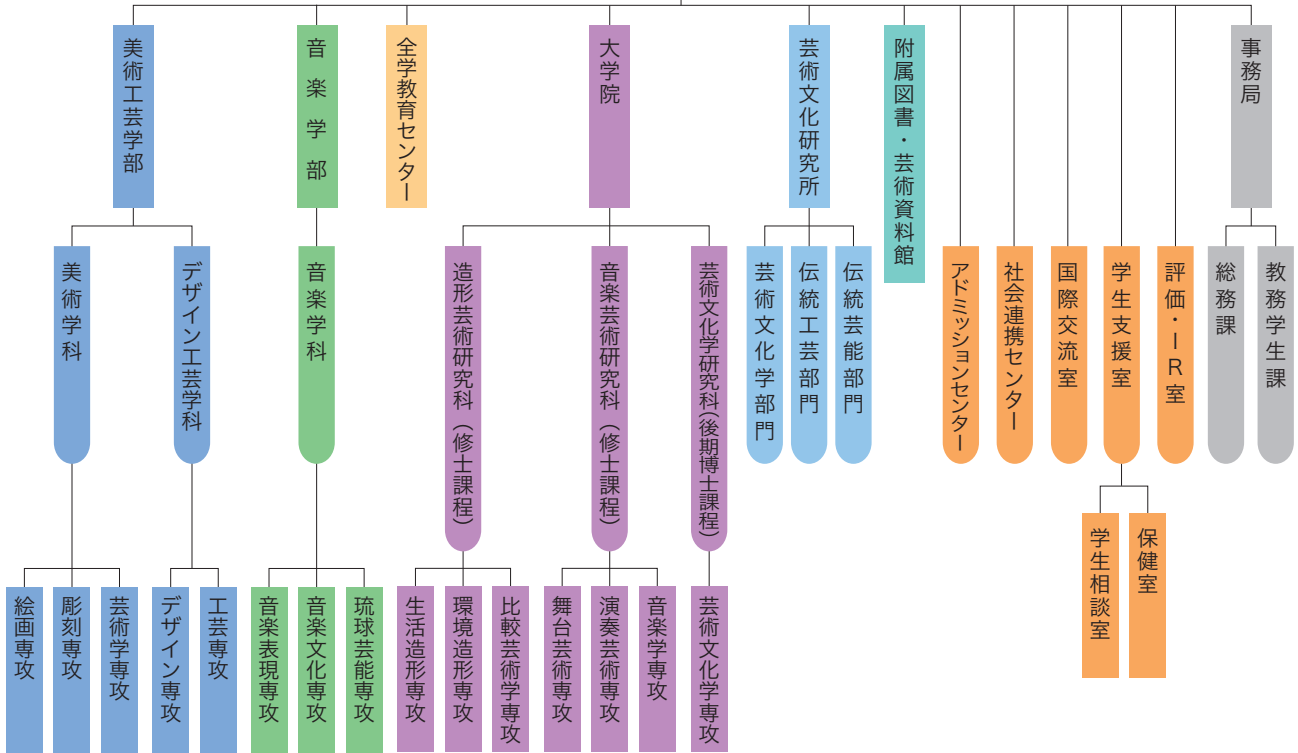
- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜及び社会人選抜を実施します。

#### 4 入学者選抜試験の基本方針と実施

- ・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッション・ポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と教科・科目に係る個別テスト等（以下「個別テスト等」という。）（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。
  - ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
  - ・総合型選抜においては、実技検査、小論文、プレゼンテーション、面接等を実施します。
  - ・音楽学部の社会人選抜においては、個別テスト等（専攻試験、小論文等）を実施します。
- いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

# 大学組織

## 沖縄県立芸術大学



# 在学生数

令和7年5月1日 現在

学部	学科	専攻	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			4年次			合計		
					小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外	小計	県内	県外
美術工芸	美術	絵画	10	40	19 (1)	6	13 (1)	21 (1)	11	10	11	6	5	12	5	7	63 (1)	28	35 (1)
		彫刻	5	20	9 (1)	3	6 (1)	7 (1)	2	5	4		4	7	1	6	27 (1)	6	21 (1)
		芸術学	6	24	8	3	5	7	4	3	6	3	3	6	2	4	27 (1)	12	15 (1)
	デザイン工芸	デザイン	20	80	25	16	9	27	20	7	21	16	5	20	14	6	93	66	27
		工芸	24	96	31 (1)	16	15 (1)	28 (1)	16	12	27	13	14	29 (1)	13	16 (1)	115 (2)	58	57 (2)
	小計			65	260	92 (3)	44	48 (3)	90	53	37	69	38	31	74 (2)	35	39 (2)	325 (5)	170
音楽	音楽	音楽表現	23	92	31	16	15	23	10	13	25	16	9	25	13	12	104	55	49
		音楽文化	7	28	4	4		5	3	2	3		3	8	4	4	20	11	9
		琉球芸能	10	40	12	11	1	8	7	1	8	8		14	9	5	42	35	7
	小計		40	160	47	31	16	36	20	16	36	24	12	47	26	21	166	101	65
合計			105	420	139 (3)	75	64 (3)	126	73	53	105	62	43	121 (2)	61	60 (2)	491 (5)	271	220 (5)

※ ( ) はうち外国人留学生数 ※研究生、科目等履修生等は除く

研究科	専攻	入学定員	総定員数	1年次			2年次			3年次			合計			
				小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学	小計	本学	他学	
造形芸術(修士)	生活造形	9	18	15 (4)	10	5 (4)	10 (3)	6	4 (3)	-	-	-	25 (7)	16	9 (7)	
	環境造形	6	12	6 (4)	2	4 (4)	10 (1)	6	4 (1)	-	-	-	16 (5)	8	8 (5)	
	比較芸術学	3	6	3 (1)	1	2 (1)	3 (1)		3	-	-	-	6 (1)	1	5 (1)	
	小計	18	36	24 (9)	13	11 (9)	23 (4)	12	11 (4)	-	-	-	47 (13)	25	22 (13)	
音楽芸術(修士)	舞台芸術	4	8	4	3	1	4	4		-	-	-	8	7	1	
	演奏芸術	8	16	8	6	2	10	10		-	-	-	18	16	2	
	音楽学	3	6	3 (1)	2	1 (1)	2 (1)	2	2	-	-	-	5 (1)	4	1 (1)	
	小計	15	30	15 (1)	11	4 (1)	16 (1)	16	16	-	-	-	31 (1)	27	4 (1)	
芸術文化学(博士)		3	9	3 (1)	2	1 (1)	3 (1)	2	1 (1)	8 (5)	2	6 (5)	14 (7)	6	8 (7)	
合計			36	75	42 (11)	26	16 (11)	42 (5)	30	12 (5)	8 (5)	2	6 (5)	92 (21)	58	34 (21)

※ ( ) はうち外国人留学生数 ※研究生、科目等履修生等は除く

総合計
583
(26)

# 教員名簿

令和8年4月1日現在

美術工芸学部／(院) 造形芸術研究科				音楽学部／(院) 音楽芸術研究科				全学教育センター							
絵画専攻	教授	高崎 賀朗	油画・シルクスクリーン	音楽表現専攻 (院)演奏芸術専攻	教授	山下 牧子	メゾ・ソプラノ	久万田 晋 <sup>○</sup>	教授	波平 八郎	日本文学				
	教授	阪田 清子	油画・インスタレーション		教授	小杉 裕一	ピアノ		教授	高良 則子	英語学／英語教育				
准教授	喜多 祥泰	日本画	教授		岡田 光樹	ヴァイオリン	教授		芳澤 拓也	教育学					
准教授	本村佳奈子	油画・木版画	教授		林 裕	チェロ	教授		荒木 臣紀	博物館学					
准教授	関谷 理	日本画	教授		阿部 雅人	ホルン	教授		張本 文昭	野外教育学					
講師	平良 優季	日本画	教授		澤村 康恵	クラリネット	教授		藤田 喜久	海洋生物学					
助教	齋 悠記	油画	教授		塚本 一実 <sup>○</sup>	作曲	教授		城間 祥子	教育心理学					
彫刻専攻	教授	砂川 泰彦	石彫 他		教授	倉橋 健	トランペット		教授	山田 浩世	歴史学				
	教授	松本 隆	テラコッタ・铸造 他		教授	小沢麻由子	ピアノ		<small>○造形芸術研究科兼任教員</small>						
芸術学専攻 (院)造形芸術研究科	教授	下野 玲子	東洋美術史		音楽文化専攻 (院)音楽学専攻	教授	山内 昌也		テノール	久万田 晋 <sup>○</sup>	久万田 晋 <sup>○</sup>	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学・民族芸能論	
	教授	喜屋武盛也	美術学	教授		松田奈緒美	ソプラノ	教授	鈴木 耕太 <sup>○</sup>			琉球文学文化学琉球芸能論			
教授	土屋 誠一	芸術学	准教授	大城 英明		ピアノ	教授	新田 慎子	染織工芸史						
准教授	千葉 慶	日本美術史	准教授	屋比久理夏		打楽器	教授	山田 聡 <sup>*</sup>	陶						
講師	太田 泉	西洋美術史	准教授	土井智恵子 <sup>○</sup>		作曲	教授	名護 朝和 <sup>*</sup>	染						
教授	波平 八郎 <sup>*</sup>	日本文学、文化学	講師	江戸聖一郎		フルート	教授	高瀬 澄子 <sup>*</sup>	日本音楽史						
教授	鈴木 耕太 <sup>*</sup>	琉球文学文化学琉球芸能論 <small>* (院)比較芸術学専攻のみ</small>	助手	宮城 勇佑		ピアノ	教授	比嘉 いづみ <sup>*</sup>	琉球舞踊						
デザイン専攻	教授	赤嶺 雅賢	グラフィックデザイン	琉球芸能専攻 (院)舞台芸術専攻		教授	谷本 裕 <sup>△</sup>	アートマネジメント	久万田 晋 <sup>○</sup>			久万田 晋 <sup>○</sup>	教授	喜屋武盛也 <sup>*</sup>	美学
	教授	仲本 武志	映像デザイン			教授	小西 潤子	民族音楽学					准教授	下野 玲子	美術史
教授	宮里 浩	環境デザイン	教授			高瀬 澄子	日本音楽史	教授					土屋 誠一	近・現代美術史、写真論	
准教授	又吉 浩樹	メディアデザイン	准教授		呉屋 淳子	文化人類学	教授	波平 八郎 <sup>*</sup>		日本文学、文化学					
准教授	高田 浩樹	プロダクトデザイン	准教授		遠藤 美奈	民族音楽学	教授	鈴木 耕太 <sup>*</sup>		琉球文学文化学琉球芸能論					
講師	赤塚美穂子	プロダクトデザイン	准教授		倉橋 玲子	西洋音楽史	教授	高瀬 澄子 <sup>*</sup>		日本音楽史					
講師	福田 知広	グラフィックデザイン	准教授		向井 大策	西洋音楽史	教授	向井 大策		西洋音楽史					
助教	高野 大	映像デザイン	講師		神谷 武史 <sup>△</sup>	アートマネジメント	教授	小西 潤子 <sup>*</sup>		民族音楽学					
工芸専攻	教授	名護 朝和	染		教授	仲嶺 伸吾	琉球古典音楽	教授		久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学				
	教授	山田 聡	陶		教授	山内 昌也	琉球古典音楽	教授		久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学				
教授	花城美弥子	織	教授	比嘉 いづみ	琉球舞踊	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
教授	富真 茂	漆	教授	新垣 俊道	琉球古典音楽	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
准教授	久保田寛子	織	教授	阿嘉 修	組踊	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
准教授	宇良 京子	染	教授	嘉数 道彦	琉球舞踊・組踊	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
准教授	島袋 克史	陶	教授	豊里 美保	琉球古典音楽	教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
講師	坂本 大地	漆	教授			教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
助教	泉 佳那	染	教授			教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							
助手	島袋 香子	漆	教授			教授	久万田 晋 <sup>○</sup>	民族音楽学							

# 教職員数

令和8年4月1日現在 単位(人)

	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員
現員	1	38	25	7	4	5	24
小計						80	24
総合計							104

## 専攻別教員数

学部等	学科等	専攻	計
美術工芸学部	美術	絵画	7
		彫刻	5
		芸術学	5
	デザイン工芸	デザイン	8
		工芸	11
全学教育			4
小計			40
音楽学部	音楽	音楽表現	17
		音楽文化	8
		琉球芸能	7
	全学教育		
小計			36
芸術文化研究所(専任)			3
合計			79

## 男女別教員数

部局   職位	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
美術工芸学部	12	3	6	4	2	3	2	2	0	2	22	14
音楽学部	9	6	6	6	2	0	0	0	1	2	18	14
全学教育センター	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	2
芸術文化研究所	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1
計	28	10	13	12	4	3	2	2	1	4	48	31

# 教育組織・教育分野・研究領域

美術工芸学部										
美術学科					デザイン工芸学科					
絵画専攻 定員10名		彫刻専攻 定員5名		芸術学専攻 定員6名	デザイン専攻 定員20名		工芸専攻 定員24名			
油画	日本画	塑造		美学	生活デザイン		工芸			
油画	平面	木彫		芸術学	産業デザイン		二年生後期に各分野に分かれます。			
平面	模写	石彫		日本美術史	環境デザイン		染	織	陶芸	漆芸
版画	絹本	金属		東洋美術史	グラフィックデザイン		紅型(筒・型)、 型染、夾織、 捺染	緋織、浮織、 綴織、組織、 素材	成形、陶土、 磁土、焼成 薪窯、 ガス窯、 電気窯	漆精製、 素地、 髹漆、加飾、 乾漆
映像・写真表現		テラコッタ		西洋美術史	映像デザイン					
空間表現		ミクストメディア			エディトリアルデザイン					
専門教育科目 (必修・選択)										
全学教育科目 (リテラシー科目〈日本語、情報、外国語〉、一般教養科目〈人文科学、社会科学、自然科学〉、										

造形芸術研究科														
環境造形専攻 定員6名			生活造形専攻 定員9名						比較芸術学専攻 定員3名					
絵画専修		彫刻専修	デザイン専修			工芸専修			比較芸術学専修					
油画 研究室	日本画 研究室	彫刻 研究室	視覚伝達 デザイン 研究室	生活環境 デザイン 研究室	染 研究室	織 研究室	陶磁器 研究室	漆工 研究室	美学・芸術学 研究室	美術史 研究室	民族芸術 文化学研究室			
平面表現 映像表現 版表現 空間表現	日本画	塑造 木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア	視覚伝達 デザイン	生活環境 デザイン	染 (型染) (紅型)	織 (織研究 (織制作)	陶磁器 (陶磁原料研究 (陶磁器研究)	漆工 (日本漆芸 (琉球漆芸)	比較芸術学 比較美学 日本・東洋・ 西洋の美学・ 芸術学	日本・東洋・ 西洋の 美術史学	琉球文学 民族文化学 日本文学 比較文化学 琉球芸能論			
関連科目														
芸術文化学研究科														
比較芸術学研究領域						民族音楽学								
比較美学・芸術学			芸術批評史			民族芸術文化学			音楽史			民族音楽学		

芸術文化研究所	
伝統芸能部門	伝統工芸部門

# 学年暦

- 4月
- 1日 学年開始及び前学期開始
  - 2日 入学式
  - 1日～7日 オリエンテーション (学部・大学院)
  - 1日～10日 前学期授業科目の登録期間
  - 8日 前学期授業開始

- 7月
- 4日 芸術文化学研究科 (博士課程) 研究発表会 (2年次生以上)
  - 18日 卒業論文、修士論文中間研究発表会 [芸術学、比較芸術学専攻]
  - 22日～31日 前学期期末試験
  - 26日 オープンキャンパス (音楽学部)

- 5月
- 15日 開学記念日 (休業)
  - 11日～12日 定期健康診断
  - 22日～24日 五芸祭 (京都市立芸術大学)

- 8月
- 1日～9/9 夏季休業
  - 1日～7日 サマースクール (美術工芸学部)
  - 2日 オープンキャンパス (美術工芸学部)

- 6月
- 7日 オープンキャンパス (美術工芸学部・音楽学部)
  - 13日 ぬちぬぐすーじさびらin摩文仁
  - 第11回レクイエムコンサート (沖繩平和祈念堂)
  - 23日 慰霊の日 (休業)

- 9月
- 5日～6日 大学院造形芸術研究科入試 (9月試験)
  - 7日～30日 中学校教育実習 (中学校及び高等学校教育職員免許状取得予定者)
  - 10日～30日 前学期集中講義、自由研究及び補講期間
  - 14日～30日 高等学校教育実習 (高等学校教育職員免許上取得予定者)
  - 21日～30日 後学期授業科目の登録期間
  - 26日～27日 総合型選抜 (美術工芸学部・音楽学部)
  - 30日 前学期終了



音楽学部									
音楽学科									
音楽表現専攻 定員23名					音楽文化専攻 定員7名		琉球芸能専攻 定員10名		
声楽コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース	
独唱 重唱 オペラ 合唱	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	独奏 室内楽 オーケストラ	創作 編曲 音楽理論	沖縄を中心とする 音楽、舞踊の研究 アートマネジメント	日本音楽史 西洋音楽史 民族音楽学	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	
専門教育科目（必修・選択）									
芸術教養科目、沖縄の文化に関する科目、健康運動科目、資格課程（教職課程、博物館学課程）									

音楽芸術研究科						
舞台芸術専攻 定員4名		演奏芸術専攻 定員8名			音楽学専攻 定員3名	
琉球古典音楽専修	琉球舞踊組踊専修	声楽専修	ピアノ専修	管弦打楽専修	音楽学専修	作曲専修
歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	独唱 オペラ	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	音楽史 民族音楽学 舞踊芸能論	創作 編曲 楽曲分析
関連科目						
<b>（後期博士課程）</b>						
研究領域		芸術表現研究領域				
民族芸能論		造形芸術			音楽芸術	
芸術文化学部門						

## 2027年

10月	1日	後学期開始及び後学期授業開始
	9日	博物館実習ガイダンス
	17日	第37回琉球芸能定期公演
	24日～25日	大学院音楽芸術研究科入試
	31日～11/1	沖芸祭準備

11月	2日～3日	沖芸祭（休講）
	4日	沖芸祭片付け（休講）
	16日	第37回洋楽定期公演
	21日～22日	学校推薦型選抜（美術工芸学部・音楽学部）

12月	5日	芸術文化学部研究科（博士課程）研究発表会（1年次生）
	5日～6日	博物館実習見学会・報告会・事後指導
	6日	オープンキャンパス（音楽学部）
	20日～1/8	冬季休業
	24日～27日	後学期12月集中講義期間

1月	10日	第32回オーケストラ定期演奏会
	12日	後学期後半授業開始
	14日～17日	絵画専攻油画2・3年生進級展
	16日～17日	大学入学共通テスト
	23日～2/4	大学院音楽芸術研究科修士演奏会
	30日～2/3	工芸専攻3年生展
	30日～31日	大学院造形芸術研究科入試（2月試験）
	30日～31日	大学院音楽芸術研究科入試（2月試験）

2月	4日～22日	後学期2月集中講義期間
	6日	第30回室内楽定期演奏会
	6日～10日	彫刻1・2・3年生展、院生1年生展
	10日～14日	美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了作品展
	22日	卒業研究・修士論文発表会（音楽文化専攻、音楽学専修）
	22日	卒業論文・修士論文発表会（芸術学専攻、比較芸術学専修）
	25日～27日	一般選抜（前期日程）

3月	1日～31日	春季休業
	2日～4日	大学院芸術文化学部研究科入試
	5日～6日	第34回卒業演奏会
	12日～14日	一般選抜（美術工芸学部 後期日程）
	18日	卒業式・修了式
	21日	オープンキャンパス（美術工芸学部）
	31日	後学期終了及び学年終了

# 美術工芸学部



美術工芸学部  
Webサイト



## 【美術学科】

- 絵画専攻  
油画分野・日本画分野
- 彫刻専攻
- 芸術学専攻

## 【デザイン工芸学科】

- デザイン専攻
- 工芸専攻  
染分野・織分野  
陶芸分野・漆芸分野

## ■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- 2 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
- 3 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
- 4 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

## ■カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるように、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 専門分野の実技と理論において、必修科目を中心とした体系的な授業科目の編成
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の

編成

- 4 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
  - 5 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施
- 学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

## ■アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

### 【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

### 【求める人物像】

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学



### 教育研究上の目的

美術工芸学部は、伝統芸術文化の継承と創造的芸術の表現を専門的かつ横断的に教授研究して、優れた芸術家をはじめとする社会的に活躍できる人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。(学則第4条の1号)

### 美術工芸学部の教育方針

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。

高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

- での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
- 2 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
  - 3 美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
  - 4 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
  - 5 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

#### 【入学者選抜試験の基本方針と実施】

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、「学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）」を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習

- に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。
  - 3 総合型選抜では、専攻別に設定する試験（実技検査、小論文、ゼミナール試験、口述試験、作品資料の提出、面接〈プレゼンテーション含む〉等）を課し、大学での学習に必要な知識・技能・思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適正や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判断します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、志願者本人が記載する書類等を活用します。

# 絵画専攻

絵を描き心の眼を養う

● 油画 ● 日本画



大学Webサイト



絵画専攻Webサイト



## ■ 求める人物像

人は生きる指針、共存する証として、どのような時代においても絵を描き続けてきました。高度に情報化し、グローバル化した現代の社会環境においても、自分自身の現実感や存在感を測り、イメージーションを共有する手段として、普遍的な絵画表現の意義や社会的役割を問うことは、とても重要と考えます。

絵画専攻では、亜熱帯に位置する沖縄の歴史・芸術文化・環境・自然に理解と愛情を持ち、自らの専門性と創作力を高めるために、造形教育の専門性に対して探究心を持って取り組み、他者とのコミュニケーションを積極的に育む人材を求めています。

### 専任教員 | 絵画

高崎 賀朗	教授	(油画・シルクスクリーン)
阪田 清子	教授	(油画・インスタレーション)
喜多 祥泰	准教授	(日本画)
本村 佳奈子	准教授	(油画・木版画)
関谷 理	准教授	(日本画)
平良 優季	講師	(日本画)
齋 悠記	助教	(油画)

教員からの  
メッセージ



高崎賀朗 教授

絵画専攻の校舎は、古都の趣を残す首里城公園に隣接し最上階からは慶良間諸島を眺望できる立地にあります。絵画専攻では、油画・日本画の実習、演習、講義等を通して段階的に幅広く絵画表現について学ぶことができます。

沖縄の自然、歴史、文化に影響を受け、多くの芸術家が芸術作品を創出してきました。学生たちは、作品制作を重ねる中から各々の資質や感性を知り、表現力を磨き、想像力を広げ、互いに切磋琢磨しながら学んでいます。新たな環境のもとで共に創作研究を深めていきましょう。

## ■カリキュラムの特徴

存在価値の多様化や均質化するグローバル情報社会にあって独創的な画家や造形作家、教育者に求められる基本的な実技能力（観察、描写、素材応用、プレゼン）を深める教育を行います。多様な絵画・造形表現の理解と課題制作による学修から美的価値観を涵養する中で個性を伸ばし、展示や講評、学外活動などを通じ他者理解と社会性を育みながら、学生の独自性を尊重した教育を目指します。個性的な表現活動を支える身体的技術力と思考力、教養と専門性の深度を総合的に養い、卒業後も創作活動を継続し美術の社会的役割に反映しうよう自ら課題を創出し、独創的な表現を探求する能力を育成します。



卒業・修了制作展展示風景



卒業・修了制作展展示風景



絹本実習



日本画制作風景



油画授業風景



油画制作風景

## ■教育課程の概要

油画分野では素描、ドローイング、油彩、素材応用表現をカリキュラムの土台とし、版表現、映像表現、インスタレーション等の実習を通して現代に対応する感性、表現力を養います。2、3年次の進級展を通して自己が創出する表現テーマを探求し、段階的に卒業制作へ向かいます。

日本画分野では素描と伝統的な材料技法の基本を理解することから始め、実習を通して模写、絹本、箔、裏打ち等を習得し、課題制作として人物、風景、自由制作などで修練を重ね、現代における表現研究の下に自己のテーマに基づいた卒業制作に向かいます。

両分野の共通の授業等としては、学外演習（離島フィールドワーク）や古美術研究（京都、奈良を主とした研修旅行）、写真（アナログ）や版画実習、絵画特論Ⅰ、Ⅱ授業として美術作家、キュレーター、評論家による集中講義があります。

## ■絵画専攻の必修科目

- 絵画基礎
- 日本画Ⅰ～Ⅳ
- 箔
- 装丁実習
- 油画Ⅰ～Ⅳ
- 染
- 空間デザイン
- 絵画特論Ⅰ・Ⅱ
- 古美術研究
- 彫刻（絵）
- デザイン（絵）
- 工芸（絵）

## 伊良波 藍

(いらは らん)

(沖縄県出身)  
大学院 造形芸術研究科  
環境造形専攻 絵画専修  
(油画) 2年生



私は本学の美術工芸学部絵画専攻(油画)を卒業し、大学院に進学しました。学部では、絵画表現の基礎をはじめとし、版表現・映像表現・インスタレーションなどの多様な表現手法も実践的に学びました。学内外で作品を展示する機会も設けられています。一般教養の授業等でも、美術史など多くの知識を身につけることができます。先生方から丁寧にご指導いただき、他の学生と同じアトリエで制作するため、日々良い刺激を受けながら制作しています。大学院では、自身で研究テーマを設定し、より深く自身の表現を探求することができます。本学は首里城が近く、多くの自然があるため、沖縄の自然や文化を身近に感じることができます。多くのことを学んで成長することができたため、本学に進学して良かったと感じています。

# 彫刻専攻

次世代の表現者になるために  
自らの手で作る力を学ぶ



大学Webサイト



彫刻専攻  
Webサイト

## ■求める人物像

彫刻専攻では、将来、彫刻を中心に造形芸術の様々な分野で活躍し社会に貢献できる作家、教育者など専門家になれる人材の育成を目指します。基礎的な観察力、造形力、立体表現能力を備え、自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索し、何よりも造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることでできる人を求めています。

## 専任教員 | 彫刻

砂川 泰彦	教授	(石彫他)
松本 隆	教授	(塑造・テラコッタ・铸造他)
河原 圭佑	准教授	(金属他)
長尾 恵那	准教授	(木彫他)
吉田 香世	助教	(金属他)

## 教員からの メッセージ



### 砂川 泰彦 教授

亜熱帯気候に育まれた沖縄県の自然、文化、歴史の中で、多様な人との出会いや芸術作品から刺激を受けながら、豊かな創造性や思考を持つ人材が育つことを願っています。卒業後、彫刻や美術の制作、表現を通して自己の将来を築いていけるように、それぞれの表現に必要な制作方法、知識、創造性を身に付け、社会で活躍できる人材を育成します。2026年秋に完成する首里城復元において木彫刻、石彫刻、龍頭棟飾り等の復元作業に卒業生・在学生在が大きく貢献しました。少人数の専攻だからこそ一人一人が自らの人生を切り開くために必要な専門分野の養成に取り組んでいます。

## ■カリキュラムの特徴

将来、専門家として創作活動を行うために必要な基礎学修の中で、個性の伸長を期して主体性・独創性を重視した教育を行います。また、学内外での実践的、体験的プログラムにおいて、学生の社会性と協働精神の育成を図ります。

彫刻専攻の教育課程は、導入から専門教育まで単に造形技術の修練のみにとどまらず、将来にわたって自ら主体的にテーマを見出し、独創的な表現の探求を続けて行くための基礎的な能力育成を目的にしており、学部カリキュラム・ポリシーを基本に、教養・専門、実技・理論教育を一体的、総合的に捉えています。学修成果は、学修目標の達成度を基準に、課題等の成果物とそれに至る試行、造形思考の深さ、説得性などによって総合的に評価します。



塑造実習



石彫実習



木彫実習



テラコッタ実習



作品設置風景（あざまサンサンビーチ）



古美術研究（近畿地方）



学部3・4年生、大学院生による  
前期成果展（附属図書・芸術資料館）

## ■教育課程の概要

彫刻専攻では、学生個々の創造能力育成に主眼を置き、1年次から3年次前学期を通して塑造、石彫、木彫、金属、鋳造、テラコッタ等の基本的な技法と理論を修得します。また、古典から近現代にいたる彫刻とその周辺の歴史を学びつつ、3年次後学期から自己のテーマに基づいて、より実践的な展示発表を前提とした制作を行い、4年次では、前・後学期ごとに明確な計画を立てて制作し卒業作品とします。

## ■教育環境

彫刻専攻の教室・アトリエは、1年次から大学院まで、学年を越えた共通の学修・制作の現場となっており、下級生は上級生との交流の中で多くを学ぶ環境にあります。

また、大学と社会の関わりを実践的に学ぶため、展覧会、シンポジウム等を行い、さらに広く国際的な視野を培うため、海外の芸術大学や卒業生の留学先等との国際交流を積極的に進めるなど、活気に満ちた教育環境づくりに専攻を挙げて取り組んでいます。

## ■彫刻専攻の必修科目

- 彫刻Ⅰ～Ⅳ
- 古美術研究
- 構成
- 絵画(彫)
- 工芸(彫)
- 彫刻特論Ⅰ・Ⅱ
- デッサン
- 鍛造
- デザイン(彫)
- 美術解剖学Ⅰ(骨)
- 彫刻史
- 鋳造

### 三浦 彩華

(みうら あやか)

(埼玉県出身)  
彫刻専攻 4年



私が本学へ進学を決めた理由は豊かな自然のなかでのびのびと制作ができる環境に惹かれ、そのような環境であれば成長できると考えたからです。実際環境から受ける影響を日々感じています。また、本学の彫刻専攻がもつ一番の利点は様々な素材を基礎から触れることができる点です。対応できる先生方や環境施設が設備されているからこそ基礎から専門的なことまで知識と技術を習得できる環境が揃っています。基礎を身につけることで制作において視野や選択肢が広がったと感じており大変貴重で有難い環境だと思います。そして少人数制であるため先生方との距離感も近く直接相談することができ、いつも親身になってアドバイスして下さる先生方には助けられてばかりです。総合的にみても本学へ進学したのは良い選択だったと思います。

# 芸術学専攻

芸術や美とは何かを追求し、  
批評精神を養う。



大学Webサイト



芸術学専攻  
Webサイト



## ■求める人物像

芸術学専攻は、沖縄県の特徴ある文化と歴史を尊重し、日本にのみとどまらず国際的な教養を備え、芸術の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。

この目的のため、本専攻では以下の人材を求めます。

- ① 多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
- ② 芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに興味がある人。
- ③ 現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
- ④ 芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

## 専任教員 | 芸術学

喜屋武 盛也	教授	(美学)
下野 玲子	教授	(東洋美術史)
土屋 誠一	教授	(芸術学)
千葉 慶	准教授	(日本美術史)
太田 泉フロランス	講師	(西洋美術史)

教員からの  
メッセージ



喜屋武 盛也 教授

芸術学を沖縄で学び、芸術や人々との絆を深めてみませんか。沖縄での大学生活は地域固有の文化に接し理解を深めながら世界へと視野を広げる機会となり、共通の興味を持つひとたちや社会との繋がりを生み出すことでしょう。批評家、キュレーター、アーティスト、教師、研究者など、様々な道が開かれています。芸術の理論や歴史を通じて心を豊かにし、より良い社会づくりに貢献することを目指す方たちの入学を待っています。



## ■カリキュラムの特徴

芸術学専攻では、芸術に関する論文を書くことの出来る学問的な力を備えた学生の育成を主要な目的としています。研究の対象となる分野は、沖縄の文化芸術のみならず美学・芸術学・日本美術史・東洋美術史・西洋美術史と幅広く設定され、学生の個性に応じて、自分に相応しい学問領域を選択できるようになっています。

また、芸術大学の学生にふさわしい実技と理論の調和を目指すことも大切な目的の一つです。語学の選択範囲も広く、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ラテン語・漢文などの他に、日本語の歴史的文書を読むための授業科目を受講できます。

1年次においては実技と理論の学習が半々になるようにカリキュラムが構成されていますが、2年次以降では、理論と歴史や語学などの学習が中心となります。2年次における「学外研究」で多くの芸術作品に触れ、芸術と社会とのかかわりを考える機会を得ることによって、自分の目指す分野が明確になっていきます。3年次で専門分野の研究を深め、4年次の「卒業論文」において、学生はそれまで大学で学んだ知識と陶冶された感性を有効に用いて一つの研究課題の下に論文を執筆することになります。さらに、就学中に博物館学課程や教職課程の科目を受講することで、学芸員資格や教員免許状を取得することができるように配慮されています。



授業風景



実技研究



学外演習



学外研究

## ■教育課程の概要



## ■芸術学専攻の必修科目

●実技研究 ●基礎演習 ●学外研究 ●卒業論文  
(他選択必修科目あり)

### 潘 炳伸 (ハン ヘイシン)

(中国 遼寧省出身)  
芸術学専攻4年生



芸術学は、創造力と多様性に満ちた学問であり、深い理論的基盤を持ちながらも、豊富な実践的内容を含んでいます。それは単なる芸術形式の研究にとどまらず、人間の文化や精神世界の深い探求でもあります。特に沖縄においては、豊かな文化遺産と独自の芸術伝統があるため、芸術学はさらに独特な魅力を持っています。

本学の芸術専攻の特徴は、学際的な視野と多様性にあります。さまざまな芸術形式に触れることができるだけでなく、歴史、哲学、文化研究などの関連学問を通じて視野を広げることができます。古典絵画の鑑賞から現代映画の分析に至るまで、芸術学は興味を深め、内面的な発見と刺激を与えてくれるでしょう。

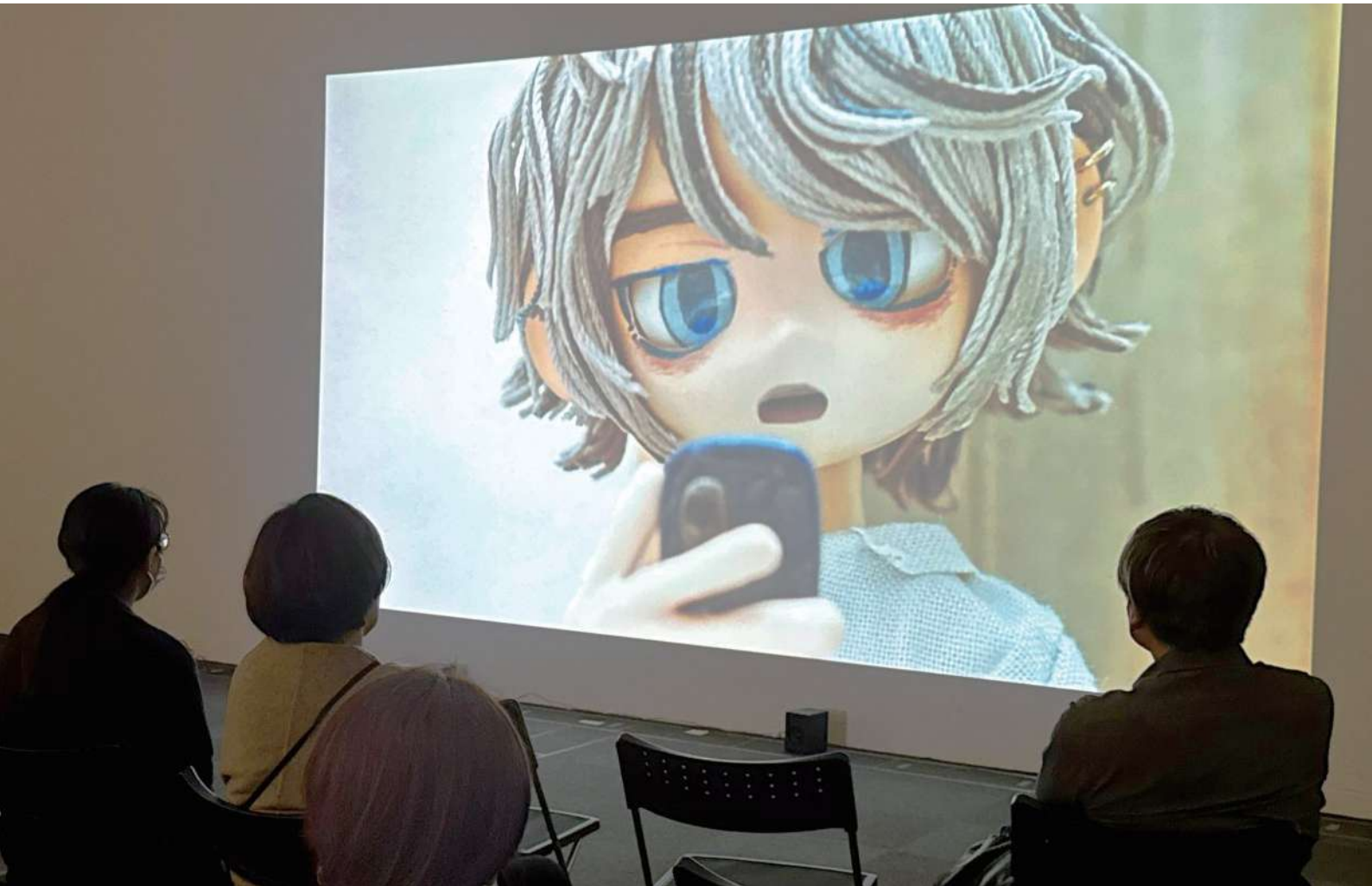
もしあなたが芸術に情熱を抱き、芸術を通じて世界を探求したいと考えているなら、本学の芸術学専攻は多くの発見と達成感をもたらす場となるでしょう。

# デザイン専攻

南の島で  
デザインを学ぼう。



大学Webサイト



## ■求める人物像

デザイン専攻は、日本最南端に位置する沖縄県の特色ある文化を、誇りを持って受け継ぎ、伝統や工芸の基礎的研究を基に、地域の経済・産業や文化活動との連携を図りながら、今日的デザインの課題を理解し、未来的志向に立つ高度な情報技術と国際的な視野を持つ人材の育成を目的とします。以上の目的に賛同し、主体的な学習能力を養い、専門分野に片寄らない健全な社会人となれるような人物を求めています。

## 専任教員 | デザイン

赤嶺 雅	教授	(グラフィックデザイン)
仲本 賢	教授	(映像デザイン)
宮里 武志	教授	(環境デザイン)
又吉 浩	教授	(メディアデザイン)
高田 浩樹	准教授	(プロダクトデザイン)
赤塚 美穂子	講師	(プロダクトデザイン)
福田 知広	講師	(グラフィックデザイン)
高野 大	助教	(映像デザイン)

## 教員からの メッセージ



赤塚 美穂子 講師

デザインは社会とのつながりを考慮し良い落としどころを提案する創造活動です。本学は、社会の流れやデザイン動向を肌で感じるには、国内都心部から離れたところに位置するものの沖縄という花や緑が年中覆い茂り海や空や風が身近に感じられる豊かな自然に囲まれ、豊かな感性・創造性が育まれやすい環境で学ぶことができます。固定概念に捉われず自由な発想でデザインを生み出す学生が多いのもそのためだと思います。本学のデザイン専攻では分野に分かれることなく選択制で授業を組み合わせる独自のカリキュラムを組んでおります。また、県内の地域と連携し沖縄独自の魅力に触れる授業もあります。これらは、今社会で求められている、領域を横断し幅広い視野を持つデザイナーの育成を目的にしています。最後に、暮らしにおいて急速にAIが身近になってきた現在、誰でも簡単に「っぽいもの」がデザインできてしまう時代です。そこで求められるのはデザインの良し悪しを見極める眼を肥やすことです。大学4年間で、たくさんものを見て触れて深く興味を惹かれること・情熱を注げることを見つけてください。デザイナーになる皆さんでないとできない強みやオリジナリティを見出し、社会で活躍できるようサポートします。

## ■カリキュラムの特徴

デザイン専攻では、専門領域の垣根を取り払い、様々なデザイン分野の中から学生が主体的に授業を選択できるようにカリキュラムを構成しています。

また、各学年に学ぶ主なこととして、1年生では、デザインの基礎を学び、デザインを学ぶ者としての自覚を促す。2年生では、デザイン機器と素材の研究をし、合わせてグループ研究を行いながら、3年生では、公共物のデザイン等を通して、デザイナーとしての社会的役割を確認。4年生では、個別の卒業制作を通してデザイナーとしての個人的資質の追究を行う。この4年間の課程を通じて、市場調査方法、社会から支援を得る方法、企画の的確な提示方法等を学び、デザイナーとしての資質を完成させます。

デザイン専攻は、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。



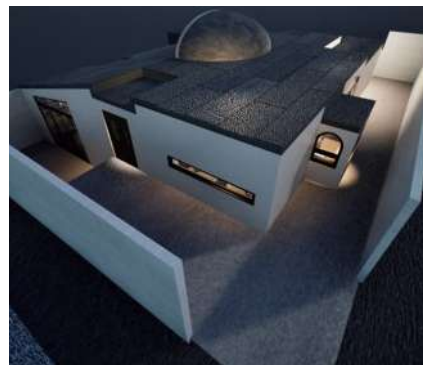
### 生活デザイン

生活道具としての器具・機器の開発や改良に関する造形的学習をします。



### 産業デザイン

情報、生産、流通などを通して、製品計画について学習をします。



### 環境デザイン

公共空間における様々な生活装飾や空間の造形的学習をします。



### グラフィックデザイン

広告やサイン計画を通して、レイアウト、イラストレーション、レタリング等の学習をします。



### メディアデザイン

アニメーション、絵本、キャラクター、動画編集などの様々なメディアを通して表現方法を学習します。



### 映像デザイン

写真、ビデオ、CGを中心、映像表現を学習します。

## ■教育課程の概要

デザイン専攻は、1年次に造形基礎を通して描写力・構成型力を養い、2、3年次では分野的領域を選択制度により、専門的な実習・演習・講義を行います。さらに、3年次のインターンシップ(企業実習制度)は産学の結びつきを意識し、実社会との接点の有効性を期待しています。4年次では、各学生が独自にテーマを決めて卒業作品を制作します。

私が本学に進学したきっかけは部活の顧問から「お前は沖縄が似合う」と言われたことでした。実際、沖縄に来てみて文化や気候、本学の雰囲気は自分に合っていると感じています。本学の良い点は、学生数が少ない分、学生同士や先生とより密な交流ができることと、授業がない時も工房設備を利用できることです。この自由に学び、制作できる環境を私は存分に活かし、楽しんでいます。

●2024年12月 沖縄デジタル映像祭2024 短編部門優秀賞

## ■デザイン専攻の必修科目

- デザインⅠ～Ⅳ
- 素描(デ)
- デザイン特別演習
- 彫刻(デ)
- 木工芸基礎
- 色彩構成
- 学外研究
- 工芸(デ)
- 立体造形(デ)
- 空間構成
- 絵画(デ)

### 福留 弦

(ふくとめ げん)

(鹿児島県出身)  
デザイン専攻4年



# 工芸専攻

感性を磨き、  
新しい伝統を創造する。



大学Webサイト



## ■求める人物像

- 沖縄固有の文化、また広く地域の芸術文化に関心があり、将来工芸作家、教育者、研究者等専門家として活躍できる人。
- 工芸技術の習得及び研究に興味があり、意欲的に作品制作に取り組み、感性を磨き、他とのコミュニケーションを密にして、自ら積極的に学び、自己形成に努力できる人。
- 芸術文化、とりわけ伝統工芸、伝統文化の継承、発展に関心があり、グローバルな視点で沖縄の工芸文化研究に意欲のある人。

## 専任教員 | 染・織・陶芸・漆芸

[染分野]	[織分野]
名護 朝和 教授	花城 美弥子 教授
宇良 京子 准教授	久保田 寛子 准教授
坂本 大地 助教	
泉 佳那 助手	
[陶芸分野]	[漆芸分野]
山田 聡 教授	當眞 茂 教授
島袋 克史 准教授	松崎 森平 講師
	島袋 香子 助手

## 教員からの メッセージ



當眞 茂 教授

沖縄は全国でも有数の工芸王国です。琉球国と呼ばれていた時代より、脈々と受け継がれてきた伝統技法が数多くあり、生活の中にしっかりと根付きながらも、日々、新しい工芸作品が生まれています。日本や中国、東南アジアの国々との交流の歴史を通して培われた文化は、力強い個性を発揮し、豊かな自然と調和しています。この地だからこそ、生み出される芸術が確かにあります。皆さんも一緒に、沖縄固有の文化が育んできた環境の中で、染・織・陶芸・漆芸を学び、作品制作に勤しんでみませんか。東アジアのキーストーン・沖縄から、新たな工芸を世界へ発信しましょう。

## 染分野



### ■カリキュラムの特徴

染分野では、紅型に代表される型表現を基礎とした様々な染色技法を習熟することによって現代社会に発信・展開する力を身につける教育を主眼としています。紙漉・琉球藍研究等を通して素材の知識を深め、型紙研究、着物制作において造形力を高めるカリキュラムです。

技術力に裏打ちされた創造性豊かな染色表現ができる人材育成を目指しています。

## 織分野



### ■カリキュラムの特徴

織分野では、絣や浮織技法を用いた織制作をはじめ、沖縄特有の植物繊維の糸作りなど天然素材研究を行います。多様な専門技術や表現方法を学び造形表現への展開を図り、個性のある創作へと応用、展開を行います。

そして、織を通して沖縄の自然や文化、社会との関わりを模索し、自己の将来を明確に展望できる人材の育成を目指しています。

## 陶芸分野



### ■カリキュラムの特徴

陶芸分野では、素材、思考、技術の3つのファクターの相互関係や連動性をカリキュラムの根幹として考えています。陶という可能性を秘めた素材を知覚することによって創造するという欲求が生まれ、それと連動するように思考が始まり、その思考を具現化させるために技術や造形力が必要となります。学部ではこの3つのファクターの相互関係や連動性の理解を促し、様々なカリキュラムを通して陶でできる多角的な表現力・造形力を養い、それを社会に対し発信できる人材の育成を目指しています。

### ■教育課程の概要

1年次から2年次前期まで美術全般を幅広く学ぶことで工芸専攻の基礎力を養うと同時に工芸専攻の4分野(染・織・陶芸・漆芸)の実習を通し、工芸制作の基礎を学びます。

2年次後期からは4分野に分かれ、専門的に素材の知識、技法や表現を3年次まで学び、学部の集大成として4年次の卒業制作へと進みます。

## 漆芸分野



### ■カリキュラムの特徴

漆芸分野では、琉球漆芸の技法や表現を吸収するとともに、幅広く日本漆芸全体を学ぶことを基礎とした上で各自の個性を伸ばす教育を目標としています。独自のカリキュラムを通して、創作活動を実践していく専門性を習得することと同時に就職などの多様な進路にも対応し、現代社会に貢献できる「人間力」を身につけることも目指しています。創造の柱となる「素材・技術・表現」を3要素として「歴史・科学・社会」とリンクしながら総合的なバランスの良い教育を展開していきます。

### ■工芸専攻の必修科目

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| ●描写      | ●陶芸Ⅰ～Ⅲ  | ●染織特別演習  |
| ●色彩      | ●窯業化学   | ●漆芸Ⅰ～Ⅲ   |
| ●立体構成    | ●陶芸特別演習 | ●漆芸科学    |
| ●工芸Ⅰ・Ⅱ   | ●染Ⅰ～Ⅲ   | ●漆芸特別演習  |
| ●立体造形(工) | ●織Ⅰ～Ⅲ   | ●絵画(工)   |
| ●版画      | ●繊維科学   | ●彫刻(工)   |
| ●デザインと素材 | ●染色化学   | ●デザイン(工) |
| ●古美術研究   |         |          |

## 染分野教育環境

染分野には、着物制作専用の引染工房があり、3年次の課題で全員が着物を染めます。また、タペストリーやパネル等の大きな作品を染める工房もあります。共同の施設として、講義室、染場、外部作業場、コンピュータ室等もあり、充実した環境が整っています。



外部作業場(水元場)

## 平田 亜優

(ひらた あゆう)

(沖縄県出身)  
大学院 造形芸術研究科  
生活造形専攻  
染研究室2年



高校生の頃に勉強した染織をより専門的に学びたいと思い、工芸専攻に入学しました。染、織、陶、漆の4分野で構成されている工芸分野を幅広く学んだ後に分野を選ぶことができるため、さまざまな表現方法を試しながら自分にあった分野選択が可能だと思います。染分野では古典紅型の模写などをはじめとして基礎技法を学んでいきます。そこから徐々に自分の作品制作へとステップアップしていくことができます。

大学生活では、日々の制作を行うなかで先生方のサポートを受けながら自分の表現を探究、追求し、他分野、他専攻の学生や先生方からの刺激を受けながら過ごすことができます。

結局は、どのようなカリキュラムよりも自身の学ぶ姿勢、作り続ける姿勢が大学生活、制作活動をよくしていくのではないかと思います。受験生の皆様が充実した大学生活を送れるように願っています。



2年生「古典紅型(筒)」



3年生「帯制作」



村上響叶「記憶の綾」



宜保瑠奈「木漏れ日のなか」



上原希天「青時雨に包まれて」  
「やわらかな晴れ間」

## 織分野教育環境

織分野では、一人一台織機完備の織工房をはじめ、糸染めや染色実験を行う染場や外部作業場、撚糸機を備えた織機械室、意匠設計を行うコンピュータ室、素材研究に必要な芭蕉畑等、制作・研究環境の充実を図っています。



織工房

## 金城 佑佳

(きんじょう ゆうか)

(沖縄県出身)  
織分野4年生



織の魅力のたて糸とよこ糸の重なりで生まれる美しい「織色」を見た時の感動は忘れられません。織分野では課題制作を通して基礎的な技術・技法を学んだ後、それらを活用し、表現方法などを探究しながら作品制作に取り組みます。芭蕉や芋麻といった自然素材を用いた授業もあり、糸を作る工程を実際に経験したことで、手わざの素晴らしさを感じることができました。大学での経験から先生方、仲間のサポートもあったおかげで、私自身成長することができました。これからも工芸ならではの素材との対話を大切に、織りを活かした表現の世界を広げていきたいと思っています。



着物ファッションショー



森田希鈴「サン」



宮城良美「くくる」

## 陶芸分野教育環境

陶芸分野では、一人に一台ずつ電動轆轤が与えられます。そして様々な焼成実習が行えるように登り窯・ガス窯・電気窯を設置し、また釉薬などの科学的な実験や研究も行えるように釉薬調合室や実験機器の設備の充実を図っています。



陶磁器製作室

## Tan Jia Xuan

(たんじあしゅん)

(マレーシア出身)  
陶芸コース4年生



私は日本の工芸に惹かれ、日本の大学に進学することを決めました。日本に来た当初は、沖縄は観光地としての印象が強くて感じていましたが、深く知るうちに沖縄には工芸の長い歴史があり、今も多くの作家たちが沖縄で活動していることも知りました。陶芸専攻に入ってから電動ろくろ、染付、鑄込みなどの非常に充実したカリキュラムが用意されていました。授業の内容によって、常勤の先生だけでなく、県内外からの非常勤の先生も来ます。多くの優れた作家と出会い、交流する機会を得ました。また、大学には様々な種類の窯が揃っており、今の社会で主流となっている窯の焼成方法を学べます。その他、豊富な原材料や設備も用意されているため、自分が作りたい釉薬の研究もできます。これらの経験は、卒業後に自分で活動していく際の判断に役立つと思います。



2年生「ロクロ基礎」



潮田尋愛「手のひらの記憶」



3年生「上絵洋絵具」



佐藤翼「ドラドラコ-国士無双-」

## 漆芸分野教育環境

漆芸分野では、実習室に様々な道具や材料を機能的に収納できる個人用作業机を置き、デザインワークや下地作業を行います。加飾室や塗部屋、大型作品の制作スペースとしての造形室や木工室の施設、電機回転ぶろ、乾漆用電気炉、堆錦用電動ローラー、回転研磨機、漆精製用ふね他、多くの機器を備えています。



漆芸実習室

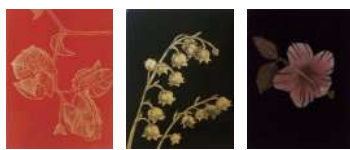
## 儀間 かのん

(ぎま かのん)

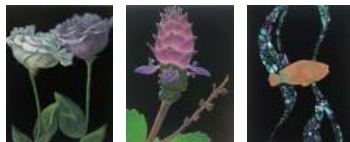
(沖縄県出身)  
漆芸分野4年生



高校は普通科でしたが、螺鈿に興味を持ち実際に自分の手で作ってみたいという思いがあり沖縄県立芸術大学の工芸専攻に進学しました。2年生の前期までは彫刻や絵画、デザインなどの他専攻の分野を幅広く学んだ後、工芸専攻の4分野の基礎を学びます。それぞれの分野の基礎を学んだ後に進む分野を決めることができるため興味の幅も広がります。漆芸分野に進んだ後も先生方が優しく教えてくださり、作品制作で「やりたい」と思ったことを実現できるようにサポートもしてくださるので安心して制作をすることができます。自らが積極的に学んでいくためにとても良い環境が整っています。また、学生生活の面では県内外各地から学生が集まっており、皆それぞれ個性があるのでコミュニケーションをとることも楽しく、充実した大学生活を送ることができます。



沈金 箔絵 研ぎ出し蒔絵



密陀絵 堆錦 平蒔絵



小南愛里「螺鈿蒔絵宝箱『夢』」



螺鈿



乾漆



漆精製

# 卒業・修了作品展 卒業論文・修士論文発表会



沖縄県立博物館・美術館の共催を得て、美術館を会場として作品展示を行うとともに、本学当蔵キャンパス一般教育棟大講義室では、卒業論文・修士論文発表会を開催しました。本展覧会は卒業・修了年次の学生たちの作品を展覧し、研究成果をより広く社会へ発信し還元することを目的としています。

沖縄の豊かな自然や伝統に育まれた若者たちが本学を巣立ち、各分野で新しい創造的な芸術文化を形成・発展させていく、その足がかりとなる展覧会にしたいと考えています。また、県内の高校生を対象に作品鑑賞会を開催しており、未来を担う若者たちの育成や地域の方々との交流にも寄与することを目標にしています。関連イベントとして、本学音楽学部によるミニコンサートも開かれ、とても華やかな展覧会となりました。





# 美術工芸学部の地域貢献

## 那覇市立病院100点の絵画作品展

期 間：2012年9月～現在  
場 所：那覇市立病院  
支援団体：那覇市立病院・本学絵画専攻

絵画専攻では、2012年より那覇市立病院内に学生と教員の絵画・ドローイング・版画・写真などの作品を展示するプロジェクトを行っています。病院という医療公共空間において、芸術作品によるホスピタリティ（心からのおもてなし）空間創出の効果を高め、確かめる共同研究の一環として実施しています。病院側と専攻側との調整のもと、1階の外來待合室や5階の検診センターなどに、学部生・大学院生・教員の有志による作品を定期的に入れ替え展示しています。



## 沖縄県立芸術大学×デパートリウボウ 第6回アートフェスティバル

期 間：令和7年9月9日（火）～令和7年9月14日（日）  
場 所：パレットくもじ6階那覇市民ギャラリー  
支援団体：デパートリウボウ

沖縄県立芸術大学とデパートリウボウとの社会連携事業として、第6回アートフェスティバル 展示販売会&演奏会を開催しました。展示会場では染・織・陶芸・漆芸・絵画・彫刻・デザインなど約1000点に及ぶ多彩な作品を展示したほか、切り絵や機織り、琉球絵画体験、特殊メイク等のワークショップも実施しました。販売作品の制作だけでなく、接客やワークショップ運営も在学生と卒業生が担当し、来場者の方々と直接交流しながら、作品や表現について伝える貴重な学びの機会となりました。また、琉球古典音楽や声楽、ピアノ連弾、ホルン三重奏など音楽学部による演奏会も同時開催され、芸術の楽しさと本学で学ぶ魅力をより身近に感じていただくとともに、地域と大学を繋ぐ取り組みとなりました。



## 比較芸術学専攻 アートレクチャー 芸術学専攻 特別講座

期 間：2025年10月10日、17日、24日  
場 所：沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス  
講 師：土屋誠一、波平八郎、太田泉フロランス  
概 要：第一弾「美術家・原口典之「構造」への視点から」  
第二弾「『八帖花伝書』を読む」  
第三弾「目に見えない価値に触れるー中世ヨーロッパの教会宝物」

アートレクチャーは、「芸術学」という魅力ある学問を広く一般的に皆様に知っていただくために毎年開講している公開講座です。比較芸術学専攻の教員が自身の専門分野から分かりやすく且つ掘り下げた内容を提供しており、好評を博しております。YouTubeでオンデマンド配信を行っているため、遠方にお住まいの皆様にも講座を聴講いただいています。また、不定期で県内外からゲストをお招きし、特別講座を開催しています。



2025年は映像作家/美術家で東京藝術大学教授の山城知佳子先生、陶芸家の長江惣吉さん、美術家のひがれおさんをお呼びしました。

## 美術工芸学部の受託事業

期 間：2025年度  
場 所：首里城正殿、沖縄県立博物館・美術館、旧円覚寺跡、龍潭線世持橋跡、コンダクトレジデンス大道、当山法律事務所 ほか  
支援団体：沖縄県土木建築部 首里城復興課・南部土木事務所、沖縄県立博物館・美術館、コンダクト(株)、(弁)当山法律事務所 ほか

2025年度も本学の教育研究力を生かした地域・社会貢献活動の一環として、地域・社会の要請に応じて多くの委託業務を受託し、美術工芸学部各専攻の教職員・学生・卒業生が参画しました。2025年度に本学が受託した主な事業は、首里城扁額製作検討業務「輯瑞球陽」額縁及び題字彫刻復元製作（彫刻/長尾准教授ほか）、被災展示品複製業務「絹黄色地梅楓桜雪輪手鞠文様紅型袷衣裳」下絵・型紙製作（染分野/名護教授ほか）、龍潭線整備工事「世持橋高欄羽目板彫刻」製作（彫刻/砂川教授ほか）、首里城復興基金事業「正殿木彫刻清書下図（和紙資料）」複製（日本画/喜多教授・平良助教ほか）、琉球王国文化遺産集積・再興事業「白密陀花虫箔絵九盆」模造復元製作髹漆・加飾試作業務（漆芸分野/眞貫教授・松崎専任講師ほか）、同「三巴紋鼎形香炉」模造復元製作（彫刻/松本教授ほか）、同「旧円覚寺三門楼上観音菩薩立像・十六羅漢立像」復元製作（彫刻/長尾准教授ほか）、同「旧円覚寺放生橋勾欄羽目石及び獅子付親柱」「珊瑚石製厨子」復元製作（彫刻/砂川教授ほか）、「コンダクトレジデンス大道」プロジェクト業務（デザイン/宮里教授ほか）、「当山法律事務所シンボルマーク及びロゴタイプ並びに当山家紋」デザイン業務（デザイン/赤嶺教授ほか）などです。





## 【音楽表現専攻】

- 声楽コース
- ピアノコース
- 弦楽コース
- 管打楽コース
- 作曲理論コース

## 【音楽文化専攻】

- 沖縄文化コース
- 音楽楽コース

## 【琉球芸能専攻】

- 琉球古典音楽コース
- 琉球舞踊組踊コース

## ■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・伝統芸能の各分野における基本的知識・技能について体系的に理解している。
- 2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識・技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
- 4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 6 獲得した知識や能力等を活用し、自からの課題を発見し解決する能力を身につけている。

## ■カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学習成果を獲得できるように、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育

- 2 専門教育（主要科目）における、4年間にわたる段階的履修
- 3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
- 5 学生の多様な関心や課題発見を促し、自律的に学習できる選択科目の設定
- 6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通じて、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供  
学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

## ■アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

### 【教育の理念】

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

### 【求める人物像】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や



## 教育研究上の目的

音楽学部は、音楽・芸能に関する専門的技能及び諸理論を教授研究として、音楽・芸能における知識、技術、表現力及び他者との協働により社会に対して汎用化できる能力を備えた人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。（学則第4条の2号）

## 音楽学部の教育方針

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の育成をめざします。豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 2 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 3 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
- 4 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 5 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

### 【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて、国語、外国語（英語はリスニングテストを含む。）及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能・思考

力等を測り評価します。また、個別テスト等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。

- 2 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。
- 3 総合型選抜では、専攻別に設定する専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、プレゼンテーション及び面接を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的・総合的な評価を行うため面接等においては、調査書及び志願者本人が記載する書類等を活用します。
- 4 社会人選抜では、専攻試験（実技試験、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視して評価します。

# 音楽表現専攻

感性を磨き、自由に音楽を表現しよう。



大学Webサイト

- 声楽コース
- ピアノコース
- 弦楽コース
- 管打楽コース
- 作曲理論コース



## ■ 教育課程の概要

音楽表現専攻は、声楽、ピアノ、弦楽、管打楽、作曲理論の5つのコースで構成され、それぞれの専門分野をはじめ、小規模校ならではの長を活かした、きめ細かい指導を行っています。大学での学びは自主性が大切です。それぞれの専門分野はもちろんのこと、自分が興味を持てるものに積極的に取り組んでほしいと思います。自身の可能性を信じる皆さんとの出会いを待っています。

### 専任教員 | 声楽コース

山下 牧子 教授 (メゾ・ソプラノ)  
山内 昌也 准教授 (テノール)  
松田 奈緒美 准教授 (ソプラノ)

### 専任教員 | ピアノコース

小杉 裕一 教授  
小沢 麻由子 教授  
大城 英明 准教授

### 専任教員 | 弦楽コース

岡田 光樹 教授 (ヴァイオリン)  
林 裕 教授 (チェロ)

### 専任教員 | 管打楽コース

阿部 雅人 教授 (ホルン)  
澤村 康恵 教授 (クラリネット)  
倉橋 健 教授 (トランペット)  
屋比久 理夏 准教授 (打楽器)  
江戸 聖一郎 講師 (フルート)

### 専任教員 | 作曲理論コース

塚本 一実 教授  
土井 智恵子 准教授

教員からの  
メッセージ



小杉 裕一 教授

### 音楽と自分自身に向き合おう！

音楽表現専攻は、声楽、ピアノ、弦楽、管打楽、作曲理論の5つのコースで構成され、それぞれの専門分野をはじめ、小規模校ならではの特性を活かして、実践を重視したきめ細やかな指導を行っており、世界に誇る先生方が皆さんをお待ちしています。沖縄の地で奏で、創作される音楽はまた格別な色合いとなることでしょう。自分自身の音楽を、我々と一緒に探してみませんか。

# 声楽コース

## ■ 求める人物像

音楽に興味を持ち、歌が好きで、音楽の総合的な研究を通して自らの世界を見つけたいと思っている人を求めています。

## ■ カリキュラムの特徴

声楽家や音楽教育者として活躍し得る人材育成を目標としています。独唱、合唱、重唱、オペラなどの授業を通して、声楽技術の習得と感性を養う指導を行い、それと合わせて音声生理学・舞台語発音演習・和声・音楽史等の授業で、知識と理解を深めるカリキュラムとなっています。



学内演奏会（オペラ総合実習 4 年次）



学内演奏会（オペラ総合実習・3 年次）



学内演奏会（合唱）



声楽レッスン風景

## ■ 声楽コースの必修科目

- 声楽実技
- オペラ総合実習
- 舞台表現演習
- ソルフェージュ
- 副科ピアノ
- 合唱
- 重唱
- 和声
- 西洋音楽通史

## 主な選択科目

- 声楽アンサンブル基礎
- 舞台語発音演習
- 音声生理学
- 音楽史

## 梅崎 希愛琉

（うめざき のえる）

（愛媛県出身）  
声楽コース4年



私は4年間を通して声楽に必要な知識や技術、作品の解釈や表現の仕方等、幅広く学ぶことができました。本学は少人数ならではの環境で、先生方や外部の先生方が親身になって指導していただき、自分の課題に合わせて丁寧にサポートしていただけたことが大きな成長に繋がりました。そして、何より一番の魅力は、一人一人が舞台に立てる回数が多いことで、演奏会などの実践の場で豊富な経験を積むことができます。さらに、3・4年生のオペラ総合実習では、学生が中心となって舞台を作り上げるので、役作りや演技はもちろん、他の生徒たちとの協調性も養うことができます。仲間と協力しながら舞台を作り上げるという経験は、声楽家としてだけでなく、人としても大きな学びとなりました。

# ピアノコース

## ■ 求める人物像

ピアノ音楽に興味と探究心を持ち、音楽をこよなく愛する人を求めています。独奏だけでなく伴奏やアンサンブルを通じて、普遍的・人間的な幅を広げたいという意欲を持っている人を求めています。

## ■ カリキュラムの特徴

専門実技を軸に、4年間を通して段階的に独奏及びアンサンブルの演奏能力を高めるとともに音楽理論や音楽史等で学んだ知識を踏まえ、適切な演奏法を習得します。地域社会との連携を含む学内外での多くの演奏実践を通して社会性を培い、音楽の普遍的な魅力を次世代に伝えられる豊かな感性を備えた人材育成を目指します。



学内演奏会（ピアノソロ）



ピアノ実技



ピアノ構造学



学内演奏会（重奏）



ピアノ重奏

## ■ ピアノコースの必修科目

- ピアノ実技
- ピアノ重奏
- 伴奏法
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 鍵盤音楽史
- ピアノ構造学
- 副科声楽

## 主な選択科目

- 室内楽
- 対位法
- 演奏解釈論
- ピアノ指導法

## 城間 真理恵

(しろま まりえ)

(沖縄県出身)  
ピアノコース4年生



本学ピアノコースは少人数制で、幅広く演奏活動を行う現役のピアニストの先生方から、第一線で培った知識と経験を直接学ぶことができます。ピアノ実技に加え、伴奏法・重奏・室内楽など、多様なアンサンブルを通して独奏だけではなく協動的な表現力を養い、総合的な音楽力を身につけることができます。1年次から積極的に他楽器とのアンサンブルに取り組む機会を得たことで、自らの演奏表現の幅も広げることができたと感じています。

また、ピアノ構造学や音響学といった理論的分野も学修でき、楽器への理解を深めながら演奏技術を高めることができます。実践と理論の両面から幅広い力を育むことで、将来演奏家や教育者、研究者としての可能性が広がります。沖縄の豊かな文化と自然に囲まれながら、音楽と向き合う日々を過ごしてみませんか。

# 弦楽コース

## ■ 求める人物像

弦楽器を通して音楽を探求し、広く芸術分野で自己を表現したいと考える人を求めています。

## ■ カリキュラムの特徴

古典から現代に至るさまざまな作品を課題として、弦楽器の独奏と合奏（アンサンブル）を学習します。専門実技（独奏）を中心に、室内楽、弦楽合奏及びオーケストラといったアンサンブルの実践的学習を通して、演奏技術や表現について体系的に学習するとともに、学生の関心に応じた科目設定ができます。



学内演奏会后に



洋楽定期演奏会



学内演奏会



洋楽定期前のSNS用に撮影

## ■ 弦楽コースの必修科目

- 弦楽実技
- 弦楽アンサンブル基礎
- 弦楽合奏
- オーケストラ
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 副科声楽
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ

## 主な選択科目

- 室内楽
- 楽曲分析
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論

## 知念 愛

(ちねん まな)

(沖縄県出身)  
弦楽コース4年生



弦楽コースでは、自分に合ったカリキュラムを組むことで、追求したい音楽性や演奏技法をとことん突き詰めることが出来ます。小人数のコースなので学生同士、先生方との距離も近く、先生からの手厚い指導や先輩からの様々な刺激を糧に大きく成長できる環境に恵まれています。学内外で演奏をする機会が非常に多く、自身の演奏における音楽表現や、演奏技術を高めていけることも本コースの魅力です。オーケストラの科目では専任教員の先生方や、度々いらっしゃる著名な演奏者と一緒に演奏することを通じ、表現や曲の解釈、演奏のアドバイスをいただいたりと、とても充実した学びを得ることができます。また、弦楽コースの学生同士でアンサンブルやコンサートを企画して、演奏会を1から作る経験もでき、中には30年近く代々繋いでいる演奏会もあります。

# 管打楽コース

## ■求める人物像

それぞれの専門楽器の演奏向上に努め、広く芸術分野で活躍できる人を求めています。また、音楽を通して豊かな人間性、社会性を身に付けたいという意欲のある人を求めています。

## ■カリキュラムの特徴

管打楽コースは木管楽器、金管楽器、打楽器に大別されます。楽器種ごとに経験豊かな教員が段階的にきめ細かい指導を行うことにより、高度な技術と豊かな音楽性を持った音楽家・指導者の育成を目指します。室内楽・管打合奏ではアンサンブルの技術だけではなく、協調性や社会性を養います。1年次から4年次までソロやオーケストラなど、数多くの演奏会に出演することで多くのことを学修することができます。



管打合奏（学内演奏会2025）



室内楽定期演奏会



室内楽定期演奏会



管打楽実技

## ■管打楽コースの必修科目

- 管打楽実技
- 管打合奏
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ
- 副科声楽

## 主な選択科目

- 室内楽
- 管弦楽史
- 管弦楽法概論
- 演奏解釈論
- オーケストラ

## 竹内 彩華

(たけうち あやか)

(沖縄県出身)  
管打楽コース4年生



管打楽コースでは、1年間を通してソロ、室内楽、オーケストラ、吹奏楽など、さまざまな分野の演奏法を学ぶことができます。特にソロでは、1年生から4年生まで毎年1回、学内演奏会で演奏する機会が与えられています。オーケストラや吹奏楽の授業では、先生方の的確なアドバイスを間近で受けながら、基礎から丁寧に学ぶことができます。他大学とは違い少人数制の大学のため、1年生の前期から演奏会に出演する機会があり、数多くの本番を経験できるのは、本学ならではの大きな魅力です。また、先生方は学生一人一人に目を配ってくださり、困ったことがあれば親身になって相談に乗ってくださいます。他専攻、他学年との交流も非常に盛んで、練習室の共有スペースでは演奏について意見を交わしたり、一緒にアンサンブルを楽しんだり、日々刺激のある環境で学ぶことができます。沖縄の美しい景色に囲まれながら、自分のペースでじっくりと楽器と向き合うことができたことは私にとってかけがえのない経験であり、演奏スキルの向上だけでなく、人間としても大きく成長することができました。



# 作曲理論コース

## ■ 求める人物像

古典から現代にいたる作曲作品を研究・分析し、創造的な音楽作品を生む能力を獲得することに意欲と情熱をもって取り組める人材を求めています。

## ■ カリキュラムの特徴

作曲理論の基礎的な能力を身に付け、近・現代にいたる楽曲の研究を通して、作曲作品を制作することを目標としています。1年次の独奏楽器とピアノによる二重奏から、自由なアンサンブルによる4年次卒業作品まで、学年が進むにつれて様々な編成での創作を経験できるようにカリキュラムが組まれており、各年次に作品を提出し、作品を発表する機会が与えられています。



2024年試演会



試演会音合わせ



試演会本番の様子



試演会本番の様子

## ■ 作曲理論コースの必修科目

- 作曲実技
- 作曲演習
- 西洋音楽通史
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 副科声楽
- 楽曲分析
- 鍵盤楽器実技
- 副科ピアノ
- 対位法

## 主な選択科目

- 管弦楽法概論
- 管弦楽史
- 鍵盤音楽史
- 声楽史



### 伊佐 璃音

(いさ りおん)

(沖縄県出身)  
作曲理論コース  
4年生

作曲理論コースでは、音楽の理論を学ぶだけでなく、自分の書いた曲を実際に演奏してもらうことで、音の構造や表現を実践的に理解していきます。演奏者との対話を通して、どのようにすれば譜面の意図が伝わりやすく、演奏しやすいのかを考えながら、自分の表現を磨いていきます。譜面の記し方ひとつで、音楽の印象が大きく変わることを体感できるのも大きな学びです。少人数制の授業では、一人ひとりに丁寧な指導が行われ、作品発表の場も充実しています。録音を通じて客観的に自作を見つめ直すこともでき、実践に即した学びが積み重なります。頭の中で思い描いた音が現実の響きとして立ち上がる瞬間には、作曲の奥深さと喜びを実感します。理論と感性の両面から音楽を深め、自分の音を確かな形で伝えたい方は、ぜひ挑戦してみてください。

# 音楽文化専攻

音楽を深く知って、  
社会とつながる

● 沖縄文化コース ● 音楽学コース



大学Webサイト



## 沖縄文化コース

### ■ 求める人物像

古典から現代に至る沖縄の音楽・芸能と文化について広い関心と問題意識を持ち、沖縄の音楽文化振興への貢献を目指したい人を求めています。

### ■ カリキュラムの特徴

1年次では、沖縄の音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、舞台企画・制作についての専門的な講義、演習、また音楽関連施設等での実習を通してアートマネジメントの知識や経験を蓄積し、4年次には卒業制作または卒業論文を作成します。

#### 専任教員 | 沖縄文化コース

谷本 裕 教授 (アートマネジメント・文化政策)  
呉屋 淳子 准教授 (文化人類学)  
遠藤 美奈 准教授 (民族音楽学・沖縄芸能研究)  
神谷 武史 講師 (アートマネジメント・文化政策)

### ■ 教育課程の概要

音楽文化専攻では、沖縄をはじめ日本やアジア、世界中のさまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について学問的に理解し、自らのことばで的確に表現する力を身につけます。講義、実技科目によって音楽文化に関する歴史や理論、実践を幅広く学ぶとともに、演習、実習科目によって専門的能力を高め、沖縄県内のみならず国内外で音楽と社会の架け橋となる人材の育成を目指します。卒業後は、アートマネジメントのエキスパート、教員、地域の指導者、音楽関連および一般企業への就職、大学院への進学等、幅広い進路が選択可能です。

## 音楽学コース

### ■ 求める人物像

ある程度の音楽的实践能力を背景に、さまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について広い関心と問題意識を持ち、深く考える能力を備えた人を求めています。

### ■ カリキュラムの特徴

1年次では、音楽学の基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、資料批判や音楽理論、フィールドワークなどの専門的な講義、演習、また論文指導などの実習を通して音楽や芸能に関する知識や経験を蓄積し、4年次には卒業論文を作成します。

#### 専任教員 | 音楽学コース

小西 潤子 教授 (民族音楽学)  
高瀬 澄子 教授 (日本音楽史)  
倉橋 玲子 准教授 (西洋音楽史)  
向井 大策 准教授 (西洋音楽史)

### 教員からの メッセージ



谷本 裕 教授

音楽は多くの人々にとって、聴いて楽しむ対象でしょう。でも或る人にとっては、それははぐくんだ文化理解を含む学びの対象であり、別の人にとっては人々と繋がる大切なツールかもしれません。沖縄には内外交流で培われた独自文化があり、今日もなお本土とは異なる、豊かな風土があります。本専攻で多様な音楽文化に親しみ、幅広い視野を培い、音楽を通して自分は何ができるか、社会でどんな役割を果たせるのか。じっくり考えてみませんか。

### ■ 沖縄文化コースの必修科目

- 音楽文化入門
- 英語文献講読
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 舞台制作論A・B
- 舞台制作演習I・II
- 音楽事業演習I・II
- 音楽文化研究I～III
- 卒業研究
- 音楽・舞踊演技I・II
- 音楽基礎演習I・II
- ソルフェージュI・II (文)
- 副科声楽 (文)
- 副科ピアノ (文)
- 和声 (文)
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義

### ■ 音楽学コースの必修科目

- 音楽文化入門
- 英語文献講読
- 民族音楽学
- 日本音楽史
- 西洋音楽史講義
- 民族音楽学演習
- 日本音楽史演習
- 西洋音楽史演習
- 音楽美学
- 音楽文化研究I～III
- 卒業研究
- 音楽基礎演習I・II
- ソルフェージュI・II (文)
- 副科声楽I・II (文)
- 副科ピアノI～IV (文)
- 和声I・II (文)
- 楽曲分析I・II (文)



ゼミナール



学外の施設見学 (沖縄サントリーアリーナ)



ガムランに親しむひと時



ゼミ発表後の茶話会

#### 砂川 慧乃

(すながわ さとの)

(沖縄県出身)  
沖縄文化コース3年



私は本学入学前、沖縄県外で大学生活を送っていました。地元を離れて、改めて沖縄のことを学びたいと考え、本学を受験しました。沖縄県立芸術大学は、沖縄の歴史や自然を身近に感じながら勉強ができる環境です。私が所属する沖縄文化コースでは、沖縄、琉球の音楽や芸能についてはもちろん、アートマネジメントについても学ぶことができます。少人数制の大学なので、先生方との距離も近く、他専攻の学生と授業内で交流し、様々な意見や考え方に触れることができます。また、私の知らなかった沖縄、音楽についての学びが大学生活に溢れており、日々刺激ももらっています。自分のやりたいことが決まっている人も、まだこれからだという人も、沢山の気づきが得られる環境だと思っています。沖縄県立芸術大学で、歴史と自然、そして芸術と共に学んでみませんか？

#### 山本 咲良

(やまもと さくら)

(愛媛県出身)  
音楽学コース3年生



沖縄県での一人暮らしは、知り合いがいなかったため不安でしたが、1年生の授業を通して友人ができ、今では充実した毎日を送っています。学部1・2年では、日本音楽や民族音楽、西洋音楽に関する講義に加え、ソルフェージュや和声、文献講読なども学び、音楽を多角的にとらえる視野を養うことができました。3年次からのゼミでは何を学ぶか悩みましたが、現在は自分の好きなボーカロイドを研究テーマに選び、日々探求を深めています。好きなことを突き詰める学びはとても楽しく、大きなやりがいに繋がっています。また、校内では演奏会が数多く開かれており、芸術文化に日常的に触れられる環境があります。自分の興味のある音楽をさらに深めたい方は、ぜひ音楽学コースでとことん自分の「好き」に挑戦してみてください。

# 琉球芸能専攻

世界でただ一つ、  
本学だけの教育研究分野



大学Webサイト

● 琉球古典音楽コース ● 琉球舞踊組踊コース



舞踊「上り口説囃子」



組踊「孝行の巻」



舞踊「早口説」



独唱



琉球古典音楽斉唱

## ■ 教育課程の概要

沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻では、琉球古典音楽コースと琉球舞踊組踊コースがあります。専門実技の研究だけでなく、理論的な研究も行い、実習・実演を行なっています。習得した技能は、琉球芸能定期公演や学内演奏会、学外での出演など様々な場所で発揮することができます。学生たちは4年間の学生生活を経て、更なる研究のため大学院へ進学する者、プロとして実演家になる者、中学・高校の教員、一般企業に勤務するなど様々な分野で活躍しています。

## 琉球古典音楽コース

### ■ 求める人物像

沖縄の伝統音楽に興味があり、その音楽の実技と理論を探究したいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

### ■ カリキュラムの特徴

琉球古典音楽実技、地謡実技などの授業を通して専門実技を学びます。4年間で琉球古典音楽独唱、琉球舞踊や組踊の地謡など幅広い技能を身につけ、琉球古典音楽の真髄に迫ります。併せて実技や理論、歴史を含めた日本・東洋・西洋音楽の技能や知識も習得し、格式高い琉球古典音楽の発信できる人材を育成します。

### 専任教員 | 琉球古典音楽コース

仲嶺 伸吾 教授 (琉球古典音楽 安富祖流)  
山内 昌也 教授 (琉球古典音楽 野村琉・湛水流)  
新垣 俊道 准教授 (琉球古典音楽 野村琉)  
豊里 美保 助手 (琉球古典音楽)

## 琉球舞踊組踊コース

### ■ 求める人物像

沖縄の伝統芸能に興味があり、琉球舞踊と組踊の実技と理論を探究し、琉球芸能に於ける視野を広げ、表現力を深めたいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

### ■ カリキュラムの特徴

琉球舞踊と組踊を実技と理論から段階的および専門的に学びます。比較舞踊実技(能・日本舞踊・八重山舞踊・バリ舞踊)、空手・古武道実技などの関連科目や楽劇鑑賞、フィールドワークなどによって幅広く琉球芸能を学びつつ、格式高い琉球芸能を発信できる人材を育成します。

### 専任教員 | 琉球舞踊組踊コース

比嘉 いずみ 教授 (琉球舞踊)  
阿嘉 修 准教授 (組踊)  
嘉数 道彦 准教授 (琉球舞踊・組踊)

### 琉球古典音楽コースの必修科目

- 琉球古典音楽実技Ⅰ～Ⅷ
- 総合実習Ⅰ～Ⅳ
- 琉球楽器実技Ⅰ・Ⅱ
- 地謡実技Ⅰ・Ⅱ
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 詞章研究Ⅰ～Ⅲ
- 琉球語
- ソルフェージュ(琉)
- 副科ピアノ(琉)
- 副科声楽(琉)
- 西洋音楽理論

### 主な選択科目

- 関連琉舞組踊実技
- 和楽器実技(長唄・生田流箏曲)
- 学外研究
- 音楽創作演習



授業風景「琉球古典音楽実技(歌三線)」



授業風景「琉球楽器実技(胡弓)」

### 琉球舞踊組踊コースの必修科目

- 琉球舞踊実技Ⅰ～Ⅷ
- 組踊実技Ⅰ～Ⅷ
- 総合実習Ⅰ～Ⅳ
- 扮装実習Ⅰ・Ⅱ
- 地謡実技Ⅰ・Ⅱ
- 日本・東洋音楽史
- 琉球芸能史
- 琉球音楽論
- 琉球芸能論
- 詞章研究Ⅰ～Ⅲ
- 琉球語
- ソルフェージュ(琉)
- 副科ピアノ(琉)
- 副科声楽(琉)
- 西洋音楽理論
- 舞踊創作演習
- 比較舞踊実技
- 空手・古武道実技
- 舞踊基礎演習
- 舞踊理論
- 楽劇理論
- 学外研究



授業風景「扮装法」



授業風景「琉球舞踊実技」

### 教員からの メッセージ

#### 嘉数 道彦 准教授



琉球芸能の発祥の地である首里城の麓で、私たちは沖縄の歴史や文化を直に感じながら、日々研鑽を積んでいます。本学では、単に技術の習得のみならず、関連する理論や一般教養を学び、多様な芸術表現に触れながら刺激を受け、自分を磨き上げる力を身につけることができます。自身の感性を活かし、志高い仲間や教員と切磋琢磨しながら、伝統芸能の奥深い魅力的な世界を共に追求してみませんか。

#### 翁長 俊輔

(おなが しゅんすけ)

(沖縄県出身)  
大学院舞台芸術  
専攻組踊専修1年次



物心つく前から触れてきた琉球芸能の奥深さに魅せられ、私は沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻への入学を決意しました。この専攻は、単に実技を習得する場ではありません。実演と研究の両輪を学べる点こそが最大の魅力です。実技はもちろん、歴史や文化背景を学術的に探求する座学も充実しており、芸能が育まれてきた精神性や世界観を深く理解することができます。私自身、数えきれないほど多くのことを学び、今もお新しい発見があります。そして何よりも素晴らしいのは、同じ志を持った仲間達との出会いです。この強い絆が、私の中にある熱い芸能魂を奮い立たせました。琉球芸能専攻は、あなたが琉球芸能の担い手として、また研究者としての原動力を身につける場所となるでしょう。私たちと一緒に、琉球芸能を次世代へと熱意を持って繋いでいきましょう。

# 奏楽堂 自己を見つめ技術を越えて 新たな表現を切り拓く場

奏楽堂は、390席を有するホールを中心として、講義室、合奏室等を備えており、入学式や卒業式等の式典行事の他、音楽実技の総合的実習や美術工芸学部における映像を利用した教育研究成果の発表など、学生が充実して実践を行えるカリキュラム提供の場です。

外観は、屋根を可能な限り小ブロックに分けることによって、大きな単一面を避け、視覚的にも建物を大きく見せない工夫がなされています。ホール内部は、コンサートを主目的としながらも伝統芸能における舞台制作も行えるようそれぞれの使用目的に対応しています。舞台の開口部の必要な高さを一定の範囲で調整可能な方式とし、同様に残響においても、壁面の残響可変装置により目的にあわせて残響を 1.4 ~ 1.8 秒に調整することができます。また講義室や合奏室等もそれぞれ遮音構造となっており、レッスンや講義に適した施設です。



奏楽堂外観



ホール客席



車椅子専用スペース



## 定期公演



琉球芸能



洋楽

第36回 琉球芸能定期公演  
2025年11月8日 沖縄県立芸術大学 奏楽堂ホール

第36回琉球芸能定期公演は、実践を通して学びの機会となることを目的に、学生と教員の共演による演目で構成し、奏楽堂ホールにて開催いたしました。

安富祖流・野村流による琉球古典音楽斉唱、オーディション選出者による独唱3題、琉球舞踊「上り口説囃子」「早口説」、組踊では上演機会の少ない「孝行の巻」を上演しました。

第36回 洋楽定期公演 2025年10月12日 奏楽堂ホール  
第31回 オーケストラ定期演奏会 2026年1月10日  
那覇文化芸術劇場なはーと

今年度の洋楽定期公演は弦楽コースによる演奏会が開催されました。またオーケストラ定期演奏会では、オールチャイコフスキー作品でのプログラムとなり、ピアノ協奏曲も含め大変壮大な演奏が繰り広げられました。



# 音楽学部の地域貢献

## おきげい出前コンサート 県庁ランチタイム ロビーコンサート

期間：2025年6月～2026年2月（計5回）  
場所：沖縄県庁ロビー（県民ホール）  
主催：沖縄県立芸術大学

6月から2月の間、偶数月の第4火曜日に沖縄県庁1階ロビーの県民ホールで、ランチコンサートを実施しました。声楽アンサンブル、チューバアンサンブル、ピアノ連弾、琉球舞踊等を披露し、県庁職員並びに来庁者など多くの方々に、音楽による癒しの空間を提供しました。



## 第10回 ぬちぬぐすーじさびら コンサートin摩文仁

期日：2025年6月14日  
場所：沖縄平和祈念堂  
共催：沖縄県立芸術大学、  
公益財団法人沖縄協会

今年は戦後80年、また本公演の開催が10回目を迎えた節目の年となり、例年演奏しているモーツァルトの《レクイエム》の演奏に加え、塚本一実教授の委嘱作品《龍潭水鏡》が初演されました。ご来場いただいた多くの県民の皆様と共に、平和を祈り願うひと時となりました。



## 輪島×首里城による双方の 復興機運醸成事業 能登復興祈念イベント 漆の絆

期日：2025年7月12,13日  
場所：首里杜館（首里城公園内）  
主催：沖縄県

沖縄県と石川県の漆職人、三線職人によって制作された「復興三線」を使用したミニコンサートにて、琉球古典音楽、琉球舞踊、ピアノとのコラボ演奏が披露されました。また11月には石川県輪島市へも出向き、同内容の演奏演舞を通し、双方の復興を願いました。



## 第6回アートフェスティバル 展示即売会&演奏会

期間：2025年9月9日～9月14日  
場所：デパートリウボウ1階特設会場  
主催：デパートリウボウ、  
沖縄県立芸術大学

美術工芸学部の作品即売会（那覇市民ギャラリー）の会期中、音楽学部では1階の特設会場にて演奏会を実施しました。声楽、コントラバス・ピアノ、琉球古典音楽、ピアノ連弾、ホルン三重奏でチームを編成し、多くの来場者にご鑑賞頂きました。



## おきげい出前コンサート 県立博物館美術館 琉球芸能鑑賞会

期日：2025年10月18日  
場所：沖縄県立博物館・美術館  
共催：沖縄県立博物館・美術館/  
沖縄県立芸術大学音楽学部

本学と包括連携を結ぶ（一社）沖縄美ら島財団との共催で、同館会期中の「震災文化財展」において琉球舞踊や沖縄民謡を披露しました。幾多の困難を乗り越え受け継がれてきた歌や踊りを、平和を願いつつ披露いたしました。



## 首里城公園 新春の宴 琉球芸能の宴

期間：2026年1月1日  
場所：首里城公園 系図座・用物座  
主催：首里城公園管理センター

新年の幕開けとして、華やかな王朝文化の魅力に触れて頂こうと毎年開催されている「首里城公園 新春の宴」。新春にふさわしい琉球舞踊、琉球古典音楽を披露しました。雨天にも関わらず観光客をはじめ多くの来場者が、足を止めて鑑賞してくださいました。



# 全学教育センター

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・附属研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。



## 全学教育科目

初年次科目	初年次セミナー	
リテラシー科目	日本語	国語表現法
	情報	コンピュータ情報論
リテラシー科目	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ 英語講読A・B 英文法 英作文 英語特演Ⅰ・Ⅱ 独語Ⅰ～Ⅳ 独語特演A・B 仏語Ⅰ～Ⅳ 仏語特演A・B 伊語Ⅰ～Ⅳ 伊語特演A・B 中国語Ⅰ～Ⅳ 中国語特演A・B 日本語初級Ⅰ・Ⅱ 日本語中級Ⅰ・Ⅱ 日本語上級Ⅰ・Ⅱ 日本語特演
	人文科学系	哲学A・B 宗教学 言語学A・B 文学概論 中国文学 日本文学
一般教養科目	社会科学系	考古学 歴史学A・B 日本国憲法 文化人類学 心理学
	自然科学系	数学 化学 生物多様性学 基礎生物学 生命科学 自然科学概論 物理学
芸術教養科目	美術	現代芸術概論 美術史 民族音楽学概論 音楽史 ポピュラー音楽論 演劇概論 アートマネジメント概論 「芸術とキャリアデザインA・B」 「キャリアデザイン基礎 (R7年度以降入学生対象)」 「芸術とキャリアデザイン (R7年度以降入学生対象)」 芸術と風土 芸術と科学 言語と文化 芸術と心の臨床
	沖縄の文化に関する科目	琉球文学 琉球沖縄史A・B 民俗学 自然環境論 沖縄学 沖縄美術工芸史 琉球芸能文化論 琉球語基礎
健康・運動科目	健康・運動理論 健康・運動実技A・B	
特別科目	SDGsと沖縄の未来探求	

## 全学教育科目

本学における全学教育科目は、将来、専門教育の成果を社会で十分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際感覚のある人材の育成を目指します。全学教育科目は、以下の7つの区分から成っています。

### 【初年次科目】

初年次科目は、全ての新生入生を対象（必修）とし、高校から大学への移行を円滑に促すため、大学における学修や生活に必要な技能や知識、態度や心構えを身につける目的で開設されます。

### 【リテラシー科目】

リテラシー科目は、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力の養成を目的として開設され、学修活動の基礎となる自己表現力を磨く科目です。

### 【一般教養科目】

一般教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学の3分野で構成されており、教養の基礎を学ぶための科目が広く置かれています。

### 【芸術教養科目】

芸術教養科目は、広範な芸術に関する教養を身につけるために開設され、専門以外の芸術諸領域についても学べるようになっています。

### 【沖縄の文化に関する科目】

沖縄の文化に関する科目は、沖縄文化に関する広範な教養を身につけるために開設し、沖縄の歴史、文化、芸術などの諸領域について深く学べるようになっています。

### 【健康・運動科目】

健康・運動科目は、理論と実技を通して健康に関する正しい知識と態度を身につけ、生涯にわたって健康で豊かな生活をつくり上げていくための基本的な姿勢を培うことを目的としています。

### 【特別科目】

特別科目は、上記6区分に区分されない科目のために開設される科目となっています。

### 全学教育センターの地域貢献

#### 「おきげい教養講座」

本学において教養教育や資格課程を担当する教員が、日頃の教育・研究を広く公開することを目的として、2016年度より開講しています。2016～2025年度に37回の講座を実施しました。

(2025年度開設講座例)

- 『月桃で手ぬぐいを染めてみよう』張本文昭(野外教育学)
- 『沖縄の海底洞窟と生物』藤田喜久(海洋生物学)
- 『渡閩航路図に描かれた航路と琉球の島々』山田浩世(歴史学)
- 『戦後80年 学校教育から考える「あなたは平和ですか?」』前田比呂也(非常勤講師)



### 専任教員 | 全学教育科目担当

波平 八郎	教授	(日本文学)
高良 則子	教授	(英語学/英語教育)
張本 文昭	教授	(野外教育学)
藤田 喜久	教授	(海洋生物学)
山田 浩世	准教授	(歴史学)



## 資格課程

教育職員免許状取得希望者は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ免許教科の種類に応じ、所定の単位を履修すれば美術、工芸、音楽などの教育職員免許状を取得できます。また、同様に博物館学課程の所定の単位を履修すれば、博物館学芸員の資格を取得することができます。

### 【教職課程】

本学教職課程では、①地域の独自性と得意分野を持つ教員、②国語力・書く力を持つ教員、③教育相談能力を持つ教員の三つの力を持つようなバランスのとれた教員の育成を目指しています。

本学で取得できる教員免許状は、まず、美術工芸学部では中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)です。また、工芸専攻では前記の二つの免許状に加え高等学校1種免許状(工芸)を取得できます。次に、音楽学部では中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)を取得することができます。さらに、大学院では、中学校教諭専修免許状(美術、音楽)、高等学校教諭専修免許状(美術、工芸、音楽)を取得することができます※1。中学校教諭免許状を取得すれば小学校の「図画工作」、「音楽」の専科教員になることもできます。現在、本学にて教員免許を取得した多くの卒業生が、本務あるいは非常勤の教員として活躍しています。

教員免許状の授与に至るまでには、卒業に必要とされる科目の他に「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等の科目を履修しなければなりません。

さらに、中学校の教員免許状を取得するには、「介護等体験」を7日間(社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間)行わなければなりません。本来、教職は幅広い教養と教員としての資質や適性はもとより、教育に関する理念、児童・生徒の成長・発達についての理解、教科に関する深い専門知識と豊かな指導力が求められます。また、

実際に教員になるためには、公立学校の場合、厳しい教員採用試験に合格しなければなりません。そのため、堅実な動機と周到な履修計画が望まれます。

※1 専攻によって取得できる免許種が異なります。

### 1. 教育の基礎的理解に関する科目等教職に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次の通り履修しなければなりません。

授業科目	教職実践演習(中・高)教育実習(短期)教育実習(長期)教育方法(情報通信技術の活用含む)学校カウンセリング生徒・進路指導論
教育原理	教育心理学
教育行政	特別支援教育
教育課程	道徳的理論及び指導法
総合的な学習の時間の指導法	



美術科教育法II



美術科教育法II

### 【博物館学課程】

博物館において、資料の収集・保管・展示・教育普及など専門的な仕事を司る職員を「学芸員」といいます。博物館学課程は、この「学芸員」となる資格を取得するための課程です。

本学では、芸術大学である特性を踏まえ、美術または音楽を専門とする学芸員を育てるカリキュラムを設けています。

今日の博物館は多様化し、実にさまざまな役割を担っています。卒業生は、沖縄県内外の博物館や美術館に学芸員として就職し、芸術と社会の架け橋となって活躍しています。



博物館実習風景

### 博物館学課程の授業科目及び履修単位

1 指定教育科目 (19 単位)
生涯学習概論 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論 博物館教育論 博物館実習
2 関連教育科目
前記 1 の指定教育科目に加え、各学部が所属学生へ提供する関連教育科目 16 単位を履修する必要があります。(詳細は「履修案内」を参照すること)



博物館実習風景

### 2. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次のとおり履修しなければなりません。

#### (美術工芸学部)

免許状の種類	教科免許	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭1種免許	美術	絵画(映像メディア表現を含む)彫刻デザイン(映像メディア表現を含む)工芸美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	
高等学校教諭1種免許	美術	絵画(映像メディア表現を含む)彫刻デザイン(映像メディア表現を含む)美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	
	工芸	図法及び製図デザイン工芸制作(プロダクト制作を含む)工芸理論、デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	

#### (音楽学部)

免許状の種類	教科免許	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭1種免許	音楽	ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	
高等学校教諭1種免許	音楽	ソルフェージュ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)指揮法 音楽理論・作曲法(編曲法を含む)・音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	

### 専任教員 | 資格課程担当

[教職課程]

芳澤 拓也 教授 (教育学)

城間 祥子 准教授 (教育心理学)

[博物館学課程]

荒木 臣紀 教授 (博物館学)

### ■教育理念

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性  
の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学、民族芸術文化学の観点から、汎アジアの広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。  
これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

### ■ディプロマ・ポリシー

(修了認定・学位授与の方針)

造形芸術研究科では、教育の理念・目的に沿った高度で専門的な教育課程で成果をあげ、修士作品又は修士論文の審査及び口述試験を経て、所定の単位を取得した学生に対し、修士(芸術)の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 幅広い視野にたち専門分野における高度な知識と技術を身につけている。
- 2 専門分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 専門分野における知識・技術を応用し、社会に発信する能力を身につけている。

## 生活造形専攻

### 工芸専修

染研究室では、古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現における形態を学びます。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得ます。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ、現代に即応した創作活動、研究制作を目標とします。  
織研究室では、沖縄の染織技法、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行います。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や創作性への展開にも取り組みます。  
陶磁器研究室では、器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得します。教育内容としては、1年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成(黒陶・野焼)を含む実習を主眼とし、2年次ではより高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行います。  
漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していきます。時代や社会をより意識し、独創的な表現を探求しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とします。

### デザイン専修

デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成ります。  
視覚伝達デザイン研究室では、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現などを研究領域とし、制作を通じてビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追究します。  
生活環境デザイン研究室では、公共空間のスペースデザイン、居住空間、家具等のデザインや地域性を勘案した製品デザイン等の造形を研究領域とし、論理的なデザインプロセスの構築手法から実践的でより高度な造形表現を追究します。



工芸専修 1年生研究発表会



第9回沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科展 at OIST



デザイン専修 講評会

## 【教育研究上の目的】

造形芸術研究科は、造形芸術分野における深い学識の涵養及び専門的な能力の教授研究により、社会における芸術活動に貢献し得る卓越した人材を育成し、もって造形芸術の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第5条第1号）

### ■カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得するために、高度で専門的な授業科目を開設し、体系的に編成・実施します。また、修士作品の制作又は修士論文作成のための研究指導を複数教員により組織的に行います。

- 1 研究実施計画に沿った指導計画に基づく研究指導により、専門分野における高度な技術と理論を身につけ、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
- 2 関連科目の履修により幅広い視野にたち深く学識を涵養する。
- 3 自律的な研究を進めるため、造形芸術における高度な技術及び知識を修得する。
- 4 専門的知識や技術を社会で応用し、新たな芸術創造と活動に貢献し得る卓越した能力を培う。

### ■アドミッション・ポリシー

（入学者受入れの方針）

造形芸術研究科では、本研究科の教育理念に基づき次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

## 環境造形専攻

### 絵画専修

絵画専修では、学部での教育課程の学習成果を踏まえ、自己の創出する研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行い、将来にわたって美術家として主体的に課題テーマを探求し、独創的な美術表現や創作活動、美的価値を創出する研究能力の育成を目指します。

油画研究室においては、平面表現、版表現、さらに映像表現、インスタレーションを研究領域とし、日本画研究室においては、伝統的な材料技法に基づく古典から現代を通した高度な修練を現代における自己の表現として確立をめざします。



大学院絵画制作風景

### 彫刻専修

彫刻専修では、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行います。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探求を継続していくための研究能力の育成を目指します。

また、今日の多様な表現領域の中で、特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養います。



彫刻専修 講評風景

## 比較芸術学専攻

### 比較芸術学専修

比較芸術学専修では、日本、東洋、西洋及び沖縄の芸術学・芸術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、あわせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、現代の芸術にも建設的な批判精神を養うことを目的としています。

また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっています。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、比較文化学、琉球文化学及び日本文学の立場から研究することを目的としています。



比較芸術学 授業風景

### ■教育理念

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

### ■ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 専門分野における高度な技術力を身につけている。
- 2 研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

## 演奏芸術専攻

### 声楽専修

声楽専修では、学部で学んだ基礎を活用しながら、より高度な研究を行い、舞台上で活躍できる人材を育てることを目的としています。カリキュラムを通し、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。

将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するために必要な演奏技術と音楽表現を学び、またオペラ歌手として一つの役を歌い演ずる歌唱技術と演技力を身につけます。さらに、協奏曲研究にてオーケストラと共演する機会も与えられます。



声楽専修

### ピアノ専修

ピアノ専修では、より高い次元での演奏を目指して、幅広い視野に立ち自身の研究を追究してゆこうとする人材を求めています。ピアノ研究ではリサイタルを1回以上開催できるレパートリーの拡充を目標とし、協奏曲研究では本学のオーケストラとの共演により、より大きなスケールでの演奏表現を体得し実践します。



ピアノ専修

### 管弦打楽専修

管弦打楽専修では、学士課程において培った専門実技の技術をさらに高め、研鑽を重ねようとする強い意志を持った人材を求めています。管弦打楽研究の個人指導を中心に、オーケストラ、室内楽等、器楽奏者として必要な分野を深く研究します。協奏曲研究ではソリストとして大学のオーケストラと共演します。



管弦打楽専修

## 【教育研究上の目的】

音楽芸術研究科は、音楽芸術分野における深い学識と専門的な研究能力を培い、社会において高度に専門的な職業を担うことのできる人材を育成し、もって音楽芸術の発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第5条の2号）

### ■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品（副論文含む）並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系的や各科目間の関係性を示します。

- 1 研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
- 2 課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
- 3 各専攻分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

### ■アドミッション・ポリシー

（入学者受入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

- 1 幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

## 舞台芸術専攻

### 琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、琉球古典音楽独唱、琉球舞踊組踊地謡を独演できる技量が求められています。

琉球古典音楽研究では、大昔節（茶屋節・昔蝶節・十七八節・長ちゃん節・仲節）の演奏表現を研究します。それらを最終的には修士演奏で発表します。また、演奏技術習得だけでなく、理論的にも追究し、副論文の作成にも取り組みます。

### 琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、代表的な古典舞踊や雑踊、組踊の基本的な役柄の演技と唱えを習得していることが求められています。

琉球舞踊研究では、琉球舞踊に関する身体表現を研究し、組踊研究では、諸様式や役柄の心情表現を研究します。

また、舞踊論研究、琉球楽劇論研究などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、創作能力を身につけます。修士演奏では、古典または創作などが課せられ、いずれも内容に即した副論文の作成にも取り組みます。



琉球古典音楽専修 修士演奏



琉球舞踊組踊専修 修士演奏

## 音楽学専攻

### 音楽学専攻

音楽学専攻では、音楽や舞踊の学問的研究を通して、社会に資する人材の養成を目的とします。音楽史・民族音楽学・舞踊芸能論の三つの研究領域があり、沖縄をはじめ、世界各地の音楽を対象とします。専門の研究領域だけでなく、隣接する研究領域の知識を身につけ、新たな知見と研究方法を確立し、修士論文を提出します。

### 作曲専修

作曲専修では、学部で培った作曲の基礎的な力を元に研鑽を重ね、独自の創作表現へと広げ高めていく意欲が求められます。作曲演習では、作品分析・研究を通して視野を広げ、作曲実習における実作能力の習熟成果として修士作品を制作し、副論文を提出します。各年次には、提出作品を実音にする試演の機会が与えられます。



音楽学専攻 講義（能楽研究）の様子



作曲専修 試演会リハーサル



## 【教育研究上の目的】

芸術文化学研究所は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的とする。

(大学院学則第5条の3号)

### ■教育理念・目標

芸術文化学研究所は、本学大学院の後期博士課程です。

本学大学院は建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

### ■ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

芸術文化学研究所では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士(芸術学)の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 専門分野においてより高度な知識と技術、それらの応用能力を有している。
- 2 研究が創造的、独創的であり、芸術文化の発展に寄与できる。
- 3 芸術文化についての幅広い識見を有し、自立した研究者として活動することができる。

### ■カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

芸術文化学研究所では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得するために、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Iを必修とし、芸術文化の理論を幅広く学修できる選択科目を開設します。また、論文作成能力を向上させるための演習科目を開設します。毎学年度の始めには研究指導教員等の指導のもと学生が研究実施計画を作成し、それに対して研究指導教員等が研究指導計画を立てあらかじめ学生に示します。研究指導は教員が複数体制で当たり、適宜学生と研究指導教員等による研究指導会議が行われます。初年度から、毎学年の終わりには研究実施報告・研究指導報告が作成され、研究の達成度を逐次確認し、課題を整理して学位取得を目指します。

### ■アドミッション・ポリシー

(入学受け入れの方針)

#### 1 教育の理念と目標

本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、芸

術文化学研究所は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関するより高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

#### 2 本研究科の求める人物像

- (1) 芸術に関する学修に必要な知識を備えている人
- (2) 専門分野における高度な研究能力と論理的思考力を備えている人
- (3) 自立した研究者となるための意欲と展望を備えている人

#### 3 入学者選抜の実施

2に掲げる人材を受け入れるため、下記の入学試験を行います。

- (1) 論文・小論文の提出を課し、高度な研究能力と論理性を測り評価します。
- (2) 筆記試験(語学)を実施し、芸術に関する知識や言語能力を測り評価します。
- (3) 芸術表現研究領域については、作品やポートフォリオの提出又は実技試験を実施し、高度な表現能力を測り評価します。
- (4) 提出された論文・小論文、筆記試験、作品・演奏、研究計画書をもとに口述試験を実施し、知識や思考能力、研究への意欲や展望等を総合的に評価します。

## 専攻案内

本学大学院の芸術文化学研究所(後期博士課程)芸術文化学専攻に比較芸術学と民族音楽学、芸術表現の三つの研究領域が設定されており、それぞれの領域において専門の研究分野が設置されています。

学生はいずれかの各分野に属して研究指導を受け、必修科目「芸術表現総合比較研究I」(2単位)及び選択科目を2科目(8単位)以上履修し、博士論文等(博士論文、研究作品又は研究演奏)の審査に合格すれば修了することになります。

### 比較芸術学研究領域

- ・比較美学・芸術学の分野では、従来における西洋美学への偏重を反省しつつ、多様な美意識を体系的な見地から比較研究することによって、それぞれの特質及び形成原理を解明することを主要な課題としています。とりわけ、芸術体験の価値構造の分析から導かれる諸契機により、東西の美意識を比較類型学的に解明することが目指されます。
- ・芸術批評史の分野においては、作家による作品の歴史という従来ありがちな美術史学の研究方法の限界を反省しつつ、美術作品を生み出してきた思想的、歴史的な背景を厳密な史料の把握を通じて、いわば精神史としての美術史を人文科学の諸方法を用いて構築することが目指されます。
- ・民族芸術文化学の分野では、諸民族における芸術と文化の役割について可能な限り実際のフィールドワークや実物資料、原資料に即して実証的研究を行います。例えば諸民族の工芸美術の比較研究、文学の比較研究、琉球の伝統芸能・伝統文化の研究、琉球史と世界各地の歴史との比較研究などを美術史学、歴史学、考古学、文学、文化人類学の諸方法を援用しつつ研究していきます。

### 民族音楽研究領域

- ・音楽史の分野では、琉球、日本、東洋及び西洋の音楽について歴史的研究を行います。古文書古楽譜の分析解釈に加えて、今日まで伝承されている音楽を対象とする場合は、その音楽の実践に即した研究方法を探索します。
- ・民族音楽学の分野では、主に対象の中心を琉球の古典音楽に置き、琉球独自の言語表現による文学とも関わり、その音楽的構造や形態との関連を研究します。あわせて琉球音楽の歴史的形成に寄与した東南アジア諸国の諸民族の音楽を民族音楽学の視点から研究します。
- ・民族芸能論の分野では、音楽を主体とする諸民族の芸能を音楽学また文化人類学の視点から学術的に研究する分野です。沖縄の伝統的な組踊や琉球舞踊・民俗芸能を中心に、アジアの舞踊・演劇を広く研究対象とします。

### 芸術表現研究領域

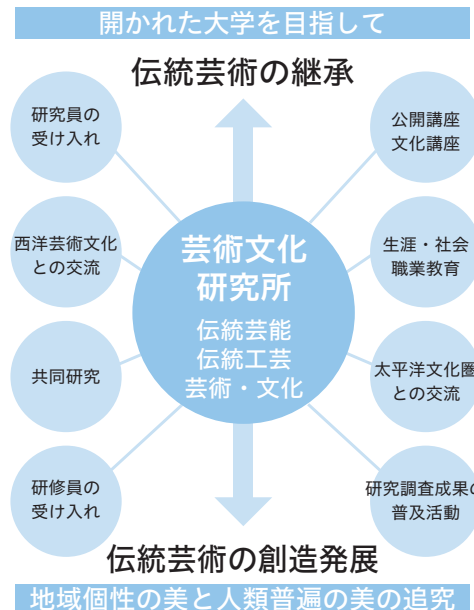
- ・造形芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、人間の知的文化的活動の一つとしての造形芸術の意味と役割について、作品制作と研究を通して伝える能力を身につけます。
- ・音楽芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な舞台表現・作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、社会・環境に根差した表現活動としての音楽芸術の意味と役割について、舞台表現・作品制作と研究の両面から伝える能力を身につけます。

# 芸術文化研究所 (金城キャンパス)



芸術文化研究所は建学の理念等に基づき、地域社会との関連に重点を置いた調査研究活動のほか、一般県民を対象とした講座や移動大学といった地域貢献活動を行っています。講座は学生も受講可能で、沖縄学の講座では単位の取得もできます。

## 芸術文化研究所設置の理念



### ● 芸術文化研究所の目的

伝統芸術の特色の解明や一般県民への研究成果の普及啓発を通じて、後継者育成を量り、伝統文化の創造と発展に寄与すること

### ● 実施事業

地域の伝統芸術およびその関連分野の調査・研究／伝統芸能の後継者の育成指導に関する技的研究・調査／文献および資料の収集・活用／研究成果の発表・公開講座の開催／研究会活動／国際交流／その他研究所が必要と認めた事項

#### 専任教員 | 芸術文化研究所

久万田 晋 所長・教授 (伝統芸能部門)  
 鈴木 耕太 教授 (芸術文化学部門)  
 新田 摂子 准教授 (伝統工芸部門)



文化講座「沖縄芸術に画期を拓いたイベント」の様子



移動大学 in 座間味島・地域芸能文化交流会の風景

- 1 移動大学は、小中学生を主な対象として離島地域で開催する事業で、県の離島地域振興計画に位置づけられています。美術工芸、音楽、空手、沖縄文化といった各種プログラムを体験講座として実施しているほか、琉球芸能等の公演、地域との交流を行いました。令和7年度は座間味村へ赴き、琉球舞踊教室や空手教室などを開講しました。
- 2 平成29年度から「しまくとぅば実践教育プログラム開発事業」を行っています。本学琉球芸能専攻へ「しまくとぅば」を用いて芸能を教授する特別講師を派遣して講義を行うほか、毎年「誇らしゃ しまくとぅば講演会」と題して、沖縄の芸能について「しまくとぅばで語る」イベントを開催しています。

### 【過去5年間の実施事業一覧】

令和3年度	移動大学 in 伊平屋島、沖縄学「沖縄芸能のダイナミズム」(オンデマンド開催)、文化講座「腰機入門」
令和4年度	移動大学 in 城辺、沖縄学「現代沖縄諸芸術の変遷」(オンデマンド講座 美ら島おきなわ文化祭連携事業)、文化講座「腰機入門-花織編-」「バリガムラン体験講座」
令和5年度	移動大学 in 久志、沖縄学「琉球・沖縄諸芸術の研究100年」(オンデマンド開催)、「紅花染めを学ぶ」
令和6年度	移動大学 in 伊是名島、沖縄学「琉球沖縄芸術文化を探求した偉人たち」(オンデマンド開催)、国際シンポジウム「ヨーロッパに渡った沖縄染織品-J.Langewisコレクションの調査報告-」、文化講座「空手・琉球の武術を学ぶ-研究の視点から-」「ガムラン体験講座(ジャワ・バリ)」
令和7年度	移動大学 in 座間味島、沖縄学「沖縄芸術文化に画期を拓いたイベント」(対面・オンデマンド開催)、文化講座「第2回 空手・琉球の武術を学ぶ-研究の視点から-」、文化講座「腰機入門- 紹織編 -」「バリの伝統舞踊(男性舞踊)(女性舞踊)」「ガムラン体験講座(ジャワ・バリ)」

※芸術文化研究所の事業の詳細については、ホームページをご覧ください。



芸術文化研究所  
Webサイト

# 附属図書・芸術資料館 (当蔵キャンパス)



附属図書・芸術資料館 外観

主な施設		
地下2階	収蔵庫(前室含む) 書庫	365㎡ 241㎡
地下1階	荷解室	29㎡
地上1階	閲覧室	358㎡
	簡易書庫	54㎡
	多目的室	90㎡
	ラーニング・commons	31㎡
地上2階	第1展示室	354㎡
	第2展示室	139㎡
	第3展示室	83㎡

蔵書数 (2025年9月現在)	
図書 85,061冊	和書 62,790冊
	洋書 19,521冊
雑誌 1,935種	楽譜 2,750冊
	和雑誌 1,790誌
視聴覚資料	洋雑誌 145誌 8,537点

附属図書・芸術資料館は芸術関係図書資料等を重点的に収集・保存している図書館と、国の重要文化財に指定されている資料を含む「鎌倉芳太郎資料」や、台湾先住民の織布を集めた「岡村吉右衛門資料」、アジアの織物を集めた「柳悦孝コレクション」など貴重な資料が収蔵されている芸術資料館からなる施設です。

図書館には、開架閲覧室、ラーニング・commons、多目的室があり学生の自主的な学習の場として活用されています。図書館ではOPACシステムで蔵書検索が行えますので、効率よく図書が見つかります。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が可能です。専門スタッフもおりますので、お気軽にお声かけください。

芸術資料館には、3つの展示室があり、館主催の企画展のほか、教員、学生等による企画展や個展などが活発に開催され、芸術表現の場として活用されています。



図書館 開架閲覧室

## 大学収蔵コレクション



「絹白地松皮菱繫檜扇団扇菊牡丹文様紅型踊衣裳」  
城間栄喜 1963年 絹/紅型/着物



「赤絵鳥紋輪花皿」 作家不明 制作年不明 陶磁器



「東道盆」 金城唯喜 制作年不明 漆/沈金



「ミセレーレ 52番」 ジョルジュ・ルオー  
1926年 版画

## 主な企画展覧会



2025年 企画展



# 施設紹介

※( ) は施設のあるキャンパス名です。

※「芸術文化研究所」「附属図書・芸術資料館」は別頁 (P45、P46) 参照。



## 管理棟・一般教育棟 (当蔵)

事務室のほか、一般教養を学ぶための教室があります。100名ほどが入れる大講義室やコンピュータ教室、LL教室も備えています。音楽棟とは芝生の中庭を挟んで向かい合っており、ベンチで休んでいる学生も見られます。



## 音楽棟 (当蔵)

首里城と龍潭池のすぐそばに建っており、絶景を眺めることもできます。講義室、演習室、練習室、楽器庫のほか洋楽と琉球芸能の大合奏室と小合奏室がそれぞれ2つつづつ、琉球舞踊の演習室が1つあります。



## 福利厚生棟 (当蔵)

地下1階地上2階建てになっており、地下は学生食堂、1階のロビーは学生のフリースペースになっているほか、保健室、学生相談室、進路コーナー、国際交流室、留学生のための日本語教室の部屋となっています。2階は博士課程の研究室と学科室、図書室になっています。



## 奏楽堂 (当蔵)

琉球芸能や洋楽、オペラの公演ができるホールのほか、講義室、合奏室、中合奏室、演習室、打楽器室、コントラバス室、録音室を兼ね備えたスタジオがあります。

授業で使用するほか、年間40回以上の公演に使用され、学生の練習場所としても活用されています。また、地域の主要なコンクールの主会場としても使用されています。



## 体育館 (当蔵)

板張りのアリーナとトレーニング用具のあるホールからなる体育館は、健康・運動科目の授業で使用するほか、バドミントン等のサークル活動や学生のレクリエーションの場としても活用されています。運動だけでなく、壁面の大鏡を利用して舞踊の練習の場として使っている学生も多いようです。



## 美術棟 (当蔵)

絵画専攻と芸術学専攻の学生が学ぶ教室があります。入り口を入ると開放的な空間にガラスで囲まれた石膏像資料室があり、大きな石膏像に圧倒されます。実習室、講義室のほか版画工房、写真工房を備えています。



## デザイン中央棟 (崎山)

学年毎の実習室のほかプロダクト工房作業室、素材加工室、セラミック室、設計製図室、プリント工房、映像スタジオ、紙漉き工房、腐蝕室、製版室、木工房、金属工房等といった幅広くデザインを学ぶために必要な設備があります。



## 工芸棟 (崎山)

染色実験室や染工房、織工房がある染分野、織分野のスペースと漆芸の実習室、塗部屋、陶芸の実習室、制作室焼成室、石膏室があります。学生は各自、自分と与えられた充分なスペースで個性的な作品を制作しています。



## 彫刻棟 (崎山)

塑造室、石彫実習室、テラコッタ・铸造室、金属実習室、金属室、木彫室等を備えています。開放的な空間の中、それぞれの作業音が重なり合い、感性豊かな作品が生み出されています。

# 国際交流

## 海外姉妹校との交流

### ■芸術・学術協定締結大学（姉妹校）

本学は国際的視野に立った芸術家・研究者を育成するために、海外の大学と芸術・学術交流協定を結び、学部・大学院の優秀な学生を対象とした交換留学を推進しています。また、協定大学とは、展覧会や演奏会活動等を含めた研究者間の交流にも積極的に取り組んでいます。

### ■姉妹校（7か国・地域12校）

福建師範大学（中国）  
中国音楽学院（中国）  
ミュンヘン造形芸術大学（ドイツ）  
ブレーメン国立芸術大学（ドイツ）  
クラウディオ・モンテヴェルディ音楽院（イタリア）  
ミラノ・ビッコカ大学（イタリア）  
チェンマイ大学美術学部（タイ）  
国立台北芸術大学（台湾）  
国立台湾芸術大学（台湾）  
インドネシア国立芸術大学バリ校（インドネシア）  
ハワイ大学マノア校（アメリカ）  
国立成功大学考古学研究所（台湾）

### ■交換留学

2025年度は、本学の学生をブレーメン国立芸術大学へ1名派遣しました。また、ブレーメン国立芸術大学から2名、ミュンヘン造形芸術大学から1名、ミラノ・ビッコカ大学から2名、国立台湾芸術大学から3名の留学生が本学で学びました。

姉妹校への交換留学は、短期留学（半年～1年）の選択肢として、学生から高い関心が寄せられています。協定校への交換留学の場合、サポート体制が充実していると同時に、通常の私費留学などに比べて、いくつかのアドバンテージがあります。

例えば、留学中は休学ではなく、本学に在籍中とみなされるため、その期間は卒業までに必要な在学期間に算入されます。留学先で取得した単位は本学の単位として認定できる場合もあります。さらに授業料は、本学に納めるだけでよく、相手校への授業料は免除となります。短期間とはいえ、海外の大学で専門分野の知識を獲得するチャンスになりますし、現地での異文化体験や人的交流は、留学経験者のその後の修学やキャリアに大きなインパクトを与えています。

在学中に積極的に海外からの留学生や留学した先輩と交流を深め、より多くの学生が海外留学へチャレンジすることによって、グローバルに活躍する人材へと成長してくれることを期待しています。



姉妹校・県費受入留学生の学長表敬訪問

### ■交換留学生の声

美術工芸学部絵画専攻 平良咲  
派遣大学：ブレーメン国立芸術大学  
（2025年10月～2026年7月）

私の所属しているFine Artsのクラスではあらゆる視点から、意見は制作過程や作品への理解を深める上で重要だと考えられており、学生も教授もオープンなマインドを持っています。そんな中で自分の意見が必要なものと受け止められる雰囲気は新鮮で、海外ならではの感じました。また学生が自分で物事を動かしていくという姿勢を当たり前持っている所も印象的です。その為の環境が整っており、学生ののびのびとした制作、表現形態を支えています。このような環境に身を置いて勉強出来ることは、今後制作だけでなく生きていく上での心構えに大きくプラスになると思います。



ブレーメン国立芸術大学 Merle Tatoli  
受入専攻：美術工芸学部彫刻専攻  
（2025年10月～2026年3月）

9月に沖縄に着いた瞬間から、私はすっかり魅了されました。これほど異なる世界に没頭できることは、私の人生を大きく豊かにしてくれると感じています。特に心に響くのは、自然との密接なつながり、日常生活の些細なことにも敬意を払う姿勢、そしてそこから生まれる穏やかさです。研究を通じて、私は沖縄の歴史と文化についてより深い洞察を得ました。石や金属、紙を扱う新たな技法を学んだだけでなく、使用する資源の起源についても多くを知りました。地元の素材の活用と、自然と職人技の直接的な相互作用に魅了されています。この相互作用に深く感銘を受けており、ここで過ごせる時間に感謝しています。



国立台湾芸術大学 Tsai-Yin Chen  
受入専攻：美術工芸学部デザイン専攻  
（2025年10月～2026年3月）

日本に来て、最初は不安もありましたが、先生やルームメイト、クラスメイトたちに助けられ、すぐに環境に慣れて楽しむようになりました。日本語やブランドデザインなど多くの授業を受け、日本と台湾ではデザインの考え方や重視する点が大きく異なることを実感し、新しい視点を得ることができました。授業内容は実践的で、コミュニケーションを通して成長することができました。沖縄で特に好きだったのは、ゆったりとした生活リズムと多様な文化を受け入れる雰囲気、そして美しい景色でした。ここでは創作のインスピレーションが得られるので、これから言語力を高めながら、自分らしい作品集を作っていきたいと思っています。



## 国際交流事業等の紹介

### ■ 国立台湾芸術大学との交流演奏会

2025年5月には、国立台湾芸術大学国楽学科の箏アンサンブル（中阮、笛、簫を含む）の教員学生の一行18名をお迎えし、本学の琉球芸能専攻を中心とした学生や教職員との交流が行われました。初日には、本学演奏堂で両大学による交流演奏会を開催し、琉球舞踊と台湾の古箏アンサンブルが披露され、約270名の来場者が台湾の古箏が奏でる多様な音色に魅了されました。演奏会に加えて2日目には、それぞれの大学が伝統楽器に関する講義やワークショップを実施し、音楽文化を通じた相互理解と交流を深めました。



交流演奏会より臺藝箏樂團による《古城之憶》の演奏

### ■ イギリス、ノリッジにて現代沖縄工芸展を開催

工芸専攻教員8名による展覧会「Okinawan Kogei: Crafting Continuity and Change」が、イギリスのノーフォーク州ノリッジ市のCrypt Galleryにて2025年10月29日～11月1日に開催されました。本展覧会は、センズベリー日本藝術研究所、イーストアングリア大学人文科学学際研究所日本研究センター、ノリッジ芸術大学、沖縄県立芸術大学の初のコラボレーションであると同時に、イギリス国内では初めて「染・織・陶・漆」分野の作品が一堂にそろった現代沖縄工芸展となりました。会期中には、ノリッジ芸術大学のキャンパスで工芸のワークショップや講演会も行われました。



ノリッジ大聖堂チャペル地下にあるCrypt Galleryでの展覧会の様子

### ■ 沖縄県海外移住者子弟等留学生の受入

本学では、1992年から沖縄県の海外移住者の子弟、いわゆる県費留学生を受け入れ、本学の学生や教職員との交流を推進しています。これまでに琉球芸能、工芸、デザイン等の分野に沖縄県出身移住者子弟を迎え入れ、沖縄の歴史・文化・伝統芸能の理解促進の機会を提供してきました。2025年度は前期にアルゼンチンから1名、ブラジルから1名（ともに音楽学部：琉球芸能専攻での研修）、ボリビアから1名（美術工芸学部：工芸分野での研修）の県費留学生を迎えることができました。本学は、世界中の様々な地域で活躍するウチナーンチュの子弟と芸術活動を通してネットワークを広げていきます。

## 国際交流室について

本学に設置されている国際交流室では、部局間連携のもとと留学の支援を中心に、姉妹校留学プログラムの運営や異文化理解を促進する教育プログラムの開発、教育・学術交流のための国際交流活動の支援などに取り組んでいます。またその活動の拠点となるのが、福利厚生棟1階にある国際交流室です。国際交流室には国際交流コーディネーターが配置され、本学から姉妹校等へ留学する学生の様々な相談に対応しています。

国際交流コーディネーターは、姉妹校への交換留学を希望する学生の情報収集をサポートし、申請時には手続き等へのアドバイスや支援を行います。姉妹校への派遣が決まったら、ガイダンスを実施し安全な渡航のための準備を応援します。また、受入留学生に対しては、留学生オリエンテーションを開催し、履修や学生生活に関する情報を提供することによって、日本での生活に一日でも早く慣れるようサポートをしています。留学先のコーディネーターと連携しながら、本学から派遣される学生や姉妹校から受け入れる留学生が、安心して有意義な留学生活を送れるよう組織的なサポートを展開しています。

また、留学生支援の一環として、チューター制度を設置しています。日本人学生やすでに在籍する留学生がチューターになって、留学生および留学予定者に対し、一定期間、サポートを提供する活動です。学生は、チューター活動を通して留学生と交流することが、留学を考える第一歩となることもあります。

国際交流室では、相互理解を深めるために、留学生との交流を推進しています。異文化交流会や異文化カフェ、留学報告会などの活動を通して、日本人学生と留学生がお互いの文化に関心を寄せ、理解し尊重しあう「多文化キャンパス」を目指しています。福利厚生棟1階の国際交流室は、留学生や留学・海外に関心のある学生はもちろん、グローバルな芸術活動に関心のある皆さんが自由に立ち寄り交流する空間です。



第1回異文化交流会（展示・発表会）



第1回異文化交流会（展示・発表会）の様子



第2回異文化交流会（懇親会）の様子



第2回異文化交流会（懇親会）

# 卒業後の進路

## 就職への取り組み

造形芸術・音楽・芸能の専門教育を行う本学では、21世紀を担う若き表現者を育成することを目指しております。芸術大学ならではの独自性や創造性は、企業、学校現場、博物館、美術館等さまざまな場所が求めており、本学の卒業生も幅広い分野で活躍をしています。

また、美術、工芸、音楽の教育職員免許状や博物館学芸員の資格も所定の単位を履修すれば取得できますので、多くの卒業生が学校教育の現場や、博物館、美術館などでも活躍しています。

本学では、進路や就職に関する相談・ガイダンス、各種セミナーのほか、「自分のキャリア(進路)をデザイン(設計)するにあたって様々な可能性に目を向けると同時に、作家や演奏家としても自立できるような技術や知識を身につけること」をテーマとした講義を開講しています。単に就職先を探すだけでなく、自分らしい生き方を見つけ、実現するためのサポートを行っています。本学は、芸術という専門性を社会で活かすための羅針盤となり、学生一人ひとりが自らの才能を最大限に発揮できるよう将来の道筋を共に描いていきます。

## 就職支援アドバイザーの取り組み

本学では学生の進路、就職に関する相談については、「進路情報コーナー」にて、就職支援アドバイザーが対応しています。沖縄の独特の文化と沖縄県立芸術大学ならではののびやかな環境の中で育まれた、芸術に対する真摯な思いと豊かでしなやかな感性や創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるようなきめ細かなサポートをしています。

また、本学学生の専門性を活かせるクリエイティブな職種・業種を中心として就職先を開拓し、本学学生にとって興味深い企業とのマッチングを図るほか、就職意識を醸成するさまざまな取り組みをオンライン、対面で行うことにより、学生が希望する仕事に就くだけでなく、社会の中で自らの力を発揮し、活躍し続けられるようなキャリア形成を支援しています。

### 【具体的な取り組み】

#### ○進路・就職相談

- ・履歴書やエントリーシートの書き方・添削
- ・面接対策
- ・自己分析・業界研究・企業研究
- ・就職活動に関する疑問や社会に出る不安解消
- ・望むキャリアの構築などキャリアカウンセリング全般

#### ○求人情報の提供

#### ○各種就職ガイダンス、ワークショップ、セミナー等の実施

#### ○書籍の貸出

#### ○学内合同企業説明会、個別企業説明会の開催

#### ○学外で行われる企業合同説明会や行政の行う大学生向け就職支援事業など、学生にとって活用しがいのある情報の把握、及び情報提供

#### ○県内・県外企業求人開拓

#### ○ポートフォリオの作り方指導

#### ○課外活動のサポート

#### ○教員採用試験・公務員試験対策勉強会



学内合同企業説明会



オンライン合同企業説明会

上記の活動に加えて、担当教員や外部の就職支援機関（ハローワーク・県キャリアセンター等）と連携し、各学生の就活状況を共有しながら共同で支援を行っています。

小規模大学ならではのきめ細やかなフォローで、多角的な観点から学生をサポートを実施しています。

## 卒業生の進路情報 (2024年度)

	美術工芸学部	音楽学部	大学院
卒業者数	63	36	42
進学者	11	18	8
就職者 (作家・音楽活動含む)	40	13	24
その他	12	5	10

※その他 (就職活動、進学準備、留学準備、進路未報告を含む)

# 主な就職先

## 美術工芸学部/大学院

### 絵画専攻

■沖縄県立博物館・美術館 ■南風原文化センター ■足立美術館(学習支援)  
■那覇造形美術学院 ■(有)櫻井事務所 ■(株)JCC ■(株)楽樹タナストーン  
■フリーカメラマン ■沖縄大学非常勤講師  
■沖縄こどもの国ワンダーミュージアム ■アカラギャラリー(ボクネン美術館)  
■(株)ムービータイム ■丸正印刷(株) ■(株)ドラックストアモリ  
■九州陶器 ■(株)モノクラム ■(株)すえぞう ■沖縄アミクス国際学園  
■SOLA沖縄学園 ■秋田公立美術大学 ■金沢21世紀美術館  
■NHK(日本放送協会)記者 ■(株)TLO ■(株)Summer Time Studio  
■県内外の中学校・高等学校 ■沖縄県立芸術大学 ■(株)保志  
■(株)プロトソリューション ■(株)サクセス ■(株)オプト  
■(有)クリエイティブハウスポケット ■他

### 彫刻専攻

■(公財)美術院国宝修理所 ■(有)エム・ツー・フォトグラフィー ■(有)鬼亮  
■ROAD WORKS ■(株)クラブティズム ■オリオンビール(株)  
■I.D.Aインターナショナルデザインアカデミー ■(株)MIC ■(株)バル  
■中嶋ブランニング ■金沢卯辰山工芸工房 ■クリエイティブアイエムエス(株)  
■(株)クロノス ■自営業 ■山口大学 ■名古屋造形大学(非常勤)  
■共立女子大学(非常勤) ■高等学校教員、小学校教員  
■沖縄県立芸術大学 ■中津木工(株) ■(株)マリンフロート  
■(株)キャン ■株式会社環芸 ■他

### 芸術学専攻

■九州国立博物館 ■彫刻の森美術館 ■沖縄県立博物館・美術館  
■那覇市歴史博物館 ■浦添美術館 ■美ら島財団 ■名護市博物館  
■前橋文学館 ■真鶴町立中川政一美術館 ■九州芸文館  
■新潟市会津八一記念館 ■名護博物館 ■茅野市民館 ■GODAC  
■IBM ■イオン北海道(株) ■桜坂劇場 ■NECラベックス  
■鹿児島書籍 ■JBFデザイン ■平山印刷 ■永昌堂印刷沖縄編集センター  
■ネットヨタ香川 ■NHK沖縄 ■光文堂コミュニケーションズ  
■株式会社いえらぶ琉球 ■中学校・高校教員 ■国家・地方公務員  
■(株)パンクチュアル ■(株)ホンダテクノフォート ■(株)昭和制作

### デザイン専攻

<広告代理店系> ■電通テック ■(株)博報堂プロダクツ  
■(株)アドスタッフ博報堂 ■(株)たきコーポレーション ■(株)エマエンタープライズ  
■(株)宣伝 ■(株)モノクラム ■日本デザインセンター  
<グラフィック系> ■(株)タイトー ■(株)エルアンドシーデザイン  
■(株)SCOOP ■mini TOMATO ■(株)光文堂コミュニケーションズ  
■平山印刷 ■(株)あしひかんばんにー ■(株)PAワークス  
■日本アニメーション(株) ■沖繩テレビ ■(株)沖繩テレビ開発  
<プロダクト系> ■(株)ITOKI ■カリモク家具(株) ■キャンディハウス  
■中川政七商店 ■ヤマハ(株) ■Unicorn Entertainment Ltd.  
■(株)GKデザイングループ ■(株)大川 ■(株)富士ファニチア  
<建築・スペース系> ■(株)息吹工務社 ■(株)国建 ■サイアスホーム(株)  
■(株)コンセプト ■(株)アレックス ■ヴィスピン建築設計 上海支店  
■そら植物園 ■デザインスタジオ琉球楽団 ■(株)船場  
■ナグモデザイン事務所  
<教育> ■県内外の中学校・高等学校 ■沖縄県立芸術大学 ■他  
<その他> ■琉球銀行 ■(株)カーズ ■フジアルテ(株)  
■(株)DXフィッシャー ■(株)ホープ ■(株)千代田プライダルハウス  
■フェスタリアホールディングス(株) ■(株)エンドレス  
■伝統工芸振興センター ■(株)NEXYZ.Group

### 工芸専攻

■紅型工房 ■織物工房 ■大嶺工房(陶芸工房) ■常秀工房(陶芸工房)  
■国場陶芸(陶芸工房) ■工房 志(陶芸工房) ■育陶園(陶芸工房)  
■糸満工芸(陶芸工房) ■北窯(陶芸工房) ■Aki-art(陶芸工房)  
■陶芸作家(自営) ■VIVACE(陶芸インストラクター)  
■OVER LAND CLUB(陶芸インストラクター) ■体験王国むら咲むら(陶芸インストラクター)  
■アーバン(陶芸インストラクター) ■飛驒産業(株) ■凸版印刷(株)  
■任天堂(株) ■中外国島(株) ■三星染色(株) ■(株)電通沖縄  
■(株)日比谷花壇 ■カメラマンアシスタント ■アパレルメーカー

■会社経営(芸能プロダクション) ■コーガンルール ■那覇造形美術学院  
■JICA ■(株)JINAX ■白山陶器(株) ■琉球朝日放送(美術スタッフ)  
■リウボウインダストリー ■洋菓子無花果(パティシエ)  
■セルフサポートセンターぴゅあ ■アッシュ・ペー・フランス(株)  
■(株)ゆう工房 ■雅織工房 ■(株)MCS ■窪田織物(株)  
■(有)島津漆器彩色工房 ■オンデーズ株式会社 ■久留米織元下川織物  
■UTエイム(株) ■ライフデザイン ■774 nanashi ■カイハラ(株)  
■書道教室 ■沖縄県工芸振興センター ■南風原文化センター  
■小学校教員 ■中学校教員 ■高等学校教員 ■有田産業大学教員  
■常滑市陶芸研究所教員 ■沖縄県立芸術大学 ■(株)漆芸工房  
■木漆工とけし ■(株)アミナコレクション ■栃木県益子町おこし協力隊  
■(株)井上企画 ■(株)大川 ■興南設計(株)  
■(株)城南警備保障 ■(株)ヤマノホールディングス ■北次株式会社  
■(株)シーエー・アドバンス ■フォーティファイブアールピーエムスタジオ(株)  
■(株)モノクラム ■(株)BANAKNわものや ■(株)ターリンインターナショナル  
■(株)エヌ・テック・システムズ ■丸廣意匠 ■他

## 音楽学部/大学院

### 音楽表現専攻

■ヴァイマル歌劇場専属歌手 ■新国立劇場合唱団員 ■鹿児島国際大学講師  
■琉球朝日放送(株) ■SDA東西学園 ■音楽教室  
■県内の小学校・中学校・高等学校教員  
■沖縄県立芸術大学(教員・助手・非常勤講師・職員)  
■レックリングハウゼン州立シンフォニーオーケストラ  
■マインツ市祝典オーケストラ ■東京交響楽団 ■山形交響楽団  
■大阪交響楽団 ■広島交響楽団 ■東京吹奏楽団 ■神奈川県警察音楽隊  
■陸上自衛隊第15音楽隊 ■航空自衛隊 ■ヤマハ(株) ■ヤマハ音楽振興会  
■ヤマハ音楽教室 ■カワイ音楽教室 ■(株)アーツポート企画  
■三越 ■三井住友銀行 ■熊本銀行 ■KAJIMOTO ■日本食研  
■郵便局 ■市役所 ■小川楽器 ■ピアノ講師 ■ミュージックプラザ  
■十勝毎日新聞 ■(株)ヤマダヤ ■合同会社PVHジャパン ■とさでん交通(株)  
■(公財)名古屋市文化振興事業団 ■(株)コジマ ■なすの楽器  
■グロースエキスパートナース ■(株)ユーズテック ■音楽教室(自営)  
■フリーランス演奏家 ■デトモルト音楽大学非常勤講師  
■洗足学園音楽大学非常勤講師 ■県立特別支援学校教員  
■県内外の小学校・中学校・高等学校教員  
■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員  
■(株)大創産業 ■JCOM(株) ■(株)フジドリームエアラインズ  
■(株)ヤマカ木材 ■愛知県消防音楽隊 ■児童発達支援事業所つくべた門司  
■愛媛県教育委員会 ■スマートキッズ(株) ■Glanz(株) ■星野リゾート  
■(株)ケイミックスパブリックビジネス ■セキミキ・グループ(株)  
■コネクシオ(株) ■他

### 音楽文化専攻

■国立劇場おきなわ ■那覇バス(株) ■(株)花水木コーポレーション  
■琉球朝日放送(株) ■琉球放送(株) ■伊豆急行(株) ■ザ・ブテナテラス  
■モトフリークウィリー ■県内舞台製作会社 ■楽譜製作工房  
■浦添市職員(行政職) ■県内外の小学校・中学校・高等学校教員  
■沖縄県立芸術大学非常勤講師 ■沖縄県庁職員(行政職)  
■宮城県教育委員会

### 琉球芸能専攻

■(公財)国立劇場おきなわ(芸術監督・嘱託員) ■NPO法人団体  
■沖縄市民小劇場あしひな ■沖繩タイムズ社 ■組踊・琉球舞踊小道具製作工房  
■三線製作・店舗経営 ■三線漆塗・店舗経営 ■飲食店経営  
■(一財)沖繩美ら島財団 ■(株)沖繩富士通システムエンジニアリング  
■ルネッサンスリゾートオキナワ ■(株)Pix ■(株)アカネクリエーション  
■那覇空港ビルディング(株) ■(株)沖電工 ■国際日本文化研究センター  
■沖縄県南部医療センター・看護師 ■介護士 ■郵便局職員  
■吉本興業(株) ■柳都振興(株) ■音楽活動(自営) ■琉球大学非常勤講師  
■県内役所・役場(職員・臨時) ■沖縄県公立養護学校教師  
■県内の小学校・中学校・高等学校(教員・臨時・非常勤講師・事務職員)  
■沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■豊見城市社会福祉協議会  
■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員 ■OTnet(株) ■他

# 活躍する卒業生



仁添 まりな  
(にぞえ まりな)



琉球画家

- 2021年 沖縄県立芸術大学 大学院芸術文化学専攻美術文化学専攻後期博士課程修了
- 2021年 VOCA2021現代美術の展望—新しい平面の作家たち—入選 (上野の森美術館, 東京)
- 2022年 第73回沖展絵画部門 奨励賞 (ANAアリーナ, 沖縄)
- 2023年 郷さくら美術館桜花賞展 入選 (郷さくら美術館, 東京)
- 2024年 第9回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展—明日の日本画を求めて—入選 (豊橋市美術館, 愛知) 等

私は2021年に博士課程を卒業し、現在は琉球画家として活動しています。卒業時はコロナ禍の真っ只中で、七転八倒のキャリアスタートでしたが、現在は画廊を通して作品を販売しています。海外のアートフェア等にも参加し、作品を通してたくさんの人と話す機会に恵まれました。大学に10年ほど在籍したなかでも、特に博士課程の3年間は濃厚な日々でした。制作と論文の両立でそれ以外の記憶が殆ど無い程でしたが、当時の経験が、初めて会う人に自分の作品や考えについて話すトレーニングになっていたと感じています。どうしても制作者は孤独になりがちですが、学生時代からいろんな人たちと対話することが、未来に繋がってくると思います。私自身、恩師からの一言がきっかけで今の肩書きができました。大学で過ごした日々が、今も背中を押してくれます。



森 結  
(もり ゆい)



福岡大学人文学部文化学科 専任講師

- 2012年 沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科芸術学専攻 卒業
- 2014年 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 比較芸術学専攻 修了
- 2019年 第26回鹿島美術財団賞
- 2021年 九州大学大学院人文科学府 博士課程単位取得満期退学
- 2022年 第20回『美術史』論文賞
- 2023年 西南学院大学博物館 助教・学芸員
- 2025年 福岡大学人文学部文化学科 専任講師

私は2025年度から福岡大学の講師をつとめています。主に西洋美術史に関する授業(全学教育/学部教育)とゼミを担当しています。弊学は総合大学のため、理工系や商業系など、今まで芸術に縁のなかった学生たちが授業を受講してくれることも多いです。そのような学生たちに、如何に芸術の魅力を届けるか、ということ念頭に日々を過ごしています。芸術大学に進学する人の多くが、将来的に芸術関係の仕事に就くことを目的としていると思います。研究・教育の道であれ、制作の道であれ、多少の困難は伴います。在学時代にどれだけ自分が志すものに、真摯に向き合うことができたかが、その後を決めます。沖縄県立芸術大学は、芸術に関する多くの学問に、少数精鋭で取り組める貴重な大学です。ぜひ授業外の時間でも、先生に意見を仰いだり、学生同士で展覧会を催したり、アウトプット活動に励んでください。社会に出た後、そうした時間がきつとかけがえのない財産となります。



宇根 康一郎  
(うね こういちろう)



公益財団法人 九州交響楽団 首席クラリネット奏者

- 2014年 器楽専攻管打楽コース卒業
- 2013年 第19回おきでんシュガーホール新人演奏会にてグランプリを受賞
- 2017年 パル・イ・ガイ音楽祭国際クラリネットコンクールにて第3位受賞 (スペイン フォズ)
- 2019年 ドイツヘッセン州立フランクフルト音楽・演劇大学 修士課程修了
- 2021年 第90回日本音楽コンクール クラリネット部門 第2位受賞
- 2025年 東京オペラシティ主催「B→Cリサイタルシリーズ」に出演

こんにちは。クラリネット奏者の宇根康一郎です。私は現在九州交響楽団の首席クラリネット奏者としてオーケストラで働いています。沖縄県で生まれ育ち、地元で音楽を勉強したく沖縄県立芸術大学に進学しました。大学ではのびのびした雰囲気の中マイペースで勉強できた思い出があり、少人数制の大学では先生と生徒が真剣に向き合える長所があると思います。僕は4年間先生にみっちりレッスンを受け、それがその後の大事な基盤になったのは言うまでもありません。1人1人の個性が尊重され、じっくり自分と向き合う大切な時間を持てたと思います。また、友達とは近くに住んでいたため、休日は遊びに行き気分転換をしたりとメリハリのついた学生生活を送ることができました。人が温かく自然豊かな沖縄で音楽を学べるのは本当に貴重な財産になると思います。ぜひ沖縄県立芸術大学で充実した大学生活をお送りください。



玉城 和樹  
(たましろ かずき)



- 2006年 音楽学部音楽学科琉球芸能専攻卒業
- 2008年 音楽芸術研究科舞台芸術専攻修了 国立劇場おきなわ組踊研修修了
- 2011年 琉球古典音楽安富祖流 師範
- 2017年 第一回玉城和樹独演会「時分の聲」
- 2021年～ 沖芸大琉球芸能専攻OB会会長

私は現在、琉球芸能の実演家として活動しています。主に組踊・琉球舞踊・沖縄芝居の地謡(歌三線)として舞台上立ち、国立劇場おきなわをはじめ県内外や海外の公演にも参加し、琉球の響きを日々届けています。舞台活動の傍らOB会会長を務め、文化庁巡回公演や学校公演、ワークショップの講師として若い世代に琉球芸能の伝統と魅力を伝える取り組みも行っています。学生時代は実技と講義が密接に結びついた環境で学び、歴史的背景や音楽理論を実践に取り入れることで、自身の芸の基礎を確かなものにできたと感じています。先生方や共に学んだ仲間との出会いは、今の活動を支える大きな力となりました。琉球の歴史が息づく首里城の麓で学べたことは大きな誇りであり、今後も学んだことを次世代へつなぎ、琉球芸能の発展に寄与していきたいと考えています。

# 学費・奨学金

## 【入学料・授業料等】

区分	授業料聴講料	入学料	
		県内居住者	その他の者
学部学生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
大学院生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
研究生	月額 29,700円	84,600円	153,600円

備考／県内居住者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

(1) 入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する者。(2) 入学の日の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者または1親等の親族のある者。

※在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

※高等教育の修学支援新制度の対象者のほか、法人の規定に基づいて入学料、授業料が減免された者は、その額が適用されます。

※大学院に入学する者のうち、社会人等で履修期間を延長する長期履修制度の適用が認められた者は、その期間に応じた授業料が適用されます。

### ■授業料以外に必要な経費

#### 1.美術工芸学部

実習経費（4年間分）は右表のとおりです。

入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになります。

※卒業経費含む

専攻	実習経費	学外研究費
絵画専攻	300,000円	180,000円
彫刻専攻	330,000円	180,000円
芸術学専攻	70,000円	160,000円
デザイン専攻	170,000円	180,000円
工芸専攻	320,000円	180,000円

#### 2.音楽学部

○琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 約 90,000円（黒朝・ハチマチ・長着稽古着代）

○琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース 約 16,000円（長着稽古着代）

#### 3.学外研究費

##### 美術工芸学部

各専攻とも2年次あるいは3年次に予定している必修科目の経費として、180,000円（芸術学専攻は160,000円）を入学時に納入し、過不足生じた場合は、入学後調整することになります。

##### 音楽学部

琉球芸能専攻では、3・4年次に予定している選択科目の経費として、実施年次に約180,000円が必要となります。音楽文化専攻沖縄文化コースでは、3年次に行われる必修科目の経費として、県外施設で研修する場合は、実施年次に80,000円～120,000円程度が必要となります。

## 【奨学金】

奨学金は、学業成績優秀な学生であって経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資として貸与等がなされるものです。

奨学金には、(独)日本学生支援機構奨学金、(公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金、地方公共団体等の奨学金、その他民間団体による奨学金等があります。

### (独)日本学生支援機構奨学金（貸与）

多くの学生が利用している奨学金です。

本学では日本学生支援機構奨学金希望者向け説明会を4月に開催しています。

#### 【学部】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金 (無利子)	月額	45,000円	51,000円
		30,000円	40,000円
		20,000円	30,000円
第二種奨学金 (有利子)		20,000円～120,000円(1万円単位)から選択	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

#### 【大学院】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		修士課程	博士課程
第一種奨学金 (無利子)	月額	50,000円	80,000円
		88,000円	122,000円
授業料後払い制度 (無利子)	学校へ振込	最大 535,800円	
		0円 20,000円 40,000円から選択	
第二種奨学金 (無利子)	月額	50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円から選択	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円(10万円単位)から選択	

### (独)日本学生支援機構奨学金（給付）

高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）の対象者に対し、奨学金を給付します。（授業料減免のみの場合あり）【学部生のみ】

### (公財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金（給付）

沖縄県立芸術大学に在学する学生（姉妹校派遣及び受入留学生を含む）で、人物、学業ともに優れ、学資の支弁が困難と認められる者（他から奨学金の貸与又は給付を受ける者を除く。但し留学生はこの限りではない。）

給付額：自宅通学者 月額 25,000円

自宅外通学者 月額 30,000円

### (公財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金（貸与）

沖縄県に本籍または住所を有する者の子弟で、人物、学業ともに優れ、かつ健康であり学資の支弁が困難と認められる者。他から奨学金の貸与を受けていない者。

貸与額：学部生 月額 45,000円（自宅通学）

月額 50,000円（自宅外通学）

修士課程 月額 70,000円

博士課程 月額 100,000円

### その他、地方公共団体、民間団体による奨学金

各市町村育英会等からの募集については、直接希望者が出願するのがほとんどです。また、それぞれ応募期間、申込先、応募資格等が異なります。各民間団体からの募集については、その都度、応募期間等について掲示板にてお知らせ致します。

# 学生生活サポート

## ■保健室



当蔵キャンパス

崎山キャンパス

保健室では、心身ともに健康で充実した大学生活が送れるようサポートしています。

毎年5月に定期健康診断を実施しています。ケガや病気の対応、健康上の不安やこころの悩みなどの相談窓口にもなっています。また、体調の維持・管理のための食事（栄養）相談や、身長、体重、血圧などの測定ができます。

体調が悪いときはベッドで休養もできます。

## ■学生相談室

大学生という新しい環境に馴染むには不安と緊張が伴います。学生相談室では、大学生活を送る上で抱える様々な悩みについて、学生支援コーディネーターや専門のカウンセラーが話をうかがいます。

こころの悩みや、学業、人間関係、不安やストレスによる心身の症状、障がいによる困り感などがあれば、一人で抱え込まずに気軽にご相談ください。

## ■ハラスメント相談

大学生活における人間関係や信頼関係をより良いものとするため、ハラスメントに関する学外相談窓口を設置しています。随時相談を受け付けており、必要に応じて面談を行っています。



## ■合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいなどを抱える学生が直面する学修上の困り事に対し、個別に対応・調整を行うものです。

このことは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる障害者差別解消法）において定められています。ここでの障がいとは、障害者手帳の有無に限らず、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいや高次脳機能障がい、その他の心や身体の働きに障がい（難病に起因する障がいも含まれます）がある人で、その障がいや社会的障壁によって制限を受けている人全てが対象となります。

本学では、障がいなどを抱える学生から何らかの対応を必要としているとの意志が伝えられたとき（申請があったとき）、負担が重すぎない範囲で個別に対応します。このことを合理的配慮と呼んでいます。

## ■公聴について

学長のメールアドレスを公開しているほか、学内（当蔵、金城、崎山キャンパス）の事務局窓口前にご意見箱を設置し、随時意見を受け付けております。（匿名可）

意見への対応については、学内で審議し、結果を掲示により公表しております。

## ■学生食堂



当蔵キャンパス福利厚生棟地下にある学生食堂は、日替わり定食、沖縄そばといった定番メニューを手頃な価格で提供しています。授業や研究に忙しい学生たちの食生活を支えているほか、一般の方にも開放されており、誰でも気軽に利用できる食堂となっています。

## ■キャンパス間シャトルバス



首里当蔵キャンパスと首里崎山キャンパスをバスで結ぶことにより、学生のキャンパス間移動の負担を軽減しています。運行本数は1日2便です。

## ■学内無線LAN (Wi-Fi)

学習環境の充実を図るため、当蔵キャンパス及び崎山キャンパスの教室、エントランスホールに学内無線LAN (Wi-Fi) を整備しています。



# 沖芸祭

本学では、毎年11月に在学生が中心となって「沖芸祭」を開催しています。沖芸祭は、本学の『建学の理念』にある「沖縄文化が作り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究すること」の研究発表・自主的活動促進の場です。毎回テーマを設定し、学生同士、また地域の方々との交流の場として、大きな役割を担っています。



写真：沖芸祭

## オープンキャンパス

芸術系大学および大学院へ進学を希望する方々を対象に、本学の教育活動や学習環境の一端を知っていただけるようオープンキャンパスを開催しています。各専攻・専修に分かれ学部・大学院についてご紹介し、個別相談会などを企画しております。

2026年度は右記のとおり予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

美術工芸学部のサマースクールは8/1～8/7までの間、開催します。



イベント情報

## Open Campus 2026

- 6/7 日 美術工芸学部・音楽学部
- 7/26 日 音楽学部
- 8/2 日 美術工芸学部
- 12/6 日 音楽学部
- 2027 3/21 日 美術工芸学部

# 入試案内



入試案内Webサイト

## 1 一般選抜【全学部全専攻、大学院実施】

実技試験と学力試験及び調査書（大学院は調査書は無し）等により総合的に判断し、選抜を行っております。

## 2 学校推薦型選抜【彫刻専攻を除く全学部全専攻実施】

出身学校長の推薦書等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果等を総合的に判断し、選抜を行っております。

## 3 総合型選抜【全学部全専攻】

入学志願者本人の記載する資料等の出願書類及び志望学科専攻による選抜試験の成績結果等を総合的に判断し、選抜を行っております。

## 4 社会人選抜【音楽学部音楽学科琉球芸能専攻／大学院比較芸術学専攻のみ実施】

共通テスト（大学院は筆答試験（語学））を、小論文、実技、面接等により総合的に判断します。

※詳しくは、Webサイト等で募集要項をご確認ください。

## 2027年度 入試日程

### ■大学入学者選抜

選抜方法		学部（専攻）	出願期間	選抜期日
一般選抜（学部）	前期日程	美術工芸、音楽	R9.1.25（月）～ 2.3（水）	R9.2.25（木）～ 2.27（土）
	後期日程	美術工芸（絵画）	R9.1.25（月）～ 2.3（水）	R9.3.12（金）～ 3.14（日）
学校推薦型選抜（学部）		美術工芸（絵画・芸術学・デザイン・工芸）	R8.11.2（月）～ 11.9（月）	R8.11.21（土）～ 11.22（日）
		音楽	R8.11.2（月）～ 11.9（月）	R8.11.21（土）～ 11.22（日）
総合型選抜（学部）		美術工芸	R8.9.1（火）～ 9.8（火）	R8.9.26（土）～ 9.27（日）
		音楽	R8.9.1（火）～ 9.8（火）	R8.9.26（土）～ 9.27（日）
私費外国人留学生選抜（学部）	前期日程	美術工芸、音楽	R9.1.25（月）～ 2.3（水）	R9.2.25（木）～ 2.27（土）
	後期日程	美術工芸（絵画）	R9.1.25（月）～ 2.3（水）	R9.3.12（金）～ 3.14（日）
社会人選抜（学部）		音楽（音楽文化・琉球芸能）	R9.1.25（月）～ 2.3（水）	R9.2.25（木）～ 2.27（土）

### ■大学院入学者選抜

研究科		専攻	出願期間	選抜期日
造形芸術研究科 （大学院・修士）	9月試験	比較芸術学	R8.7.27（月）～ 8.3（月）	R8.9.5（土）～ 9.6（日）
	2月試験	生活造形、環境造形、比較芸術学	R8.12.7（月）～ 12.14（月）	R9.1.30（土）～ 1.31（日）
音楽芸術研究科 （大学院・修士）	10月試験	舞台芸術、演奏芸術、音楽学	R8.9.18（金）～ 9.28（月）	R8.10.24（土）～ 10.25（日）
	2月試験	舞台芸術、演奏芸術、音楽学	R8.12.7（月）～ 12.14（月）	R9.1.30（土）～ 1.31（日）
芸術文化学研究科（大学院・博士）		芸術文化学	R9.1.18（月）～ 1.22（金）	R9.3.2（火）～ 3.4（木）

## 大学案内（冊子印刷物）の請求・受け取り方法

### 1. テレメールで請求する場合

有料により請求が可能です。

資料請求番号：568302

料金等：215円

インターネット：テレメール web アドレスを用いて請求してください。

○テレメール web アドレス / <http://telemail.jp/>



※発送開始時期と送料  
については、変動する  
ことがあります。

資料名

大学案内

発送開始時期

4月下旬

資料請求先

インターネット

### 2. 本学で直接受け取る場合

下記の場所で配布いたします。

事前に電話予約の上でご来校ください。

請求・受け取り先

〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4

沖縄県立芸術大学事務局教務学生課

TEL. 098-882-5080

郵送希望の場合

封筒の表に「大学案内請求」と朱書きし、

上記の住所に郵送してください。

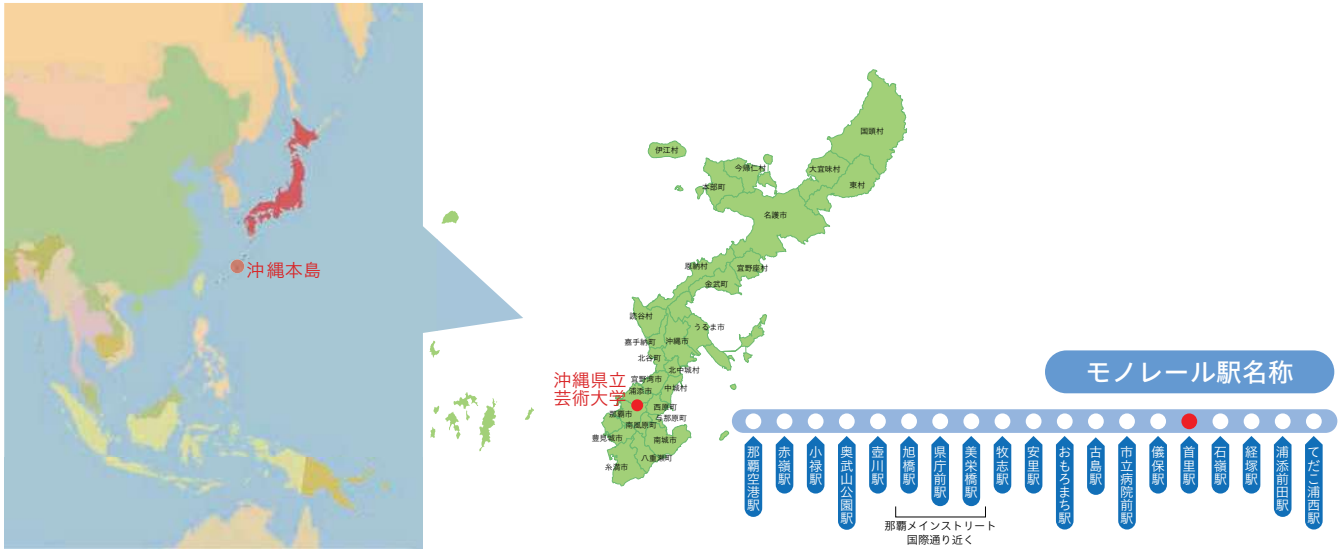
返信用封筒（角型2号・33cm×24cm）を同封してください。

返信用封筒には、あて先（請求者の郵便番号、住所、氏名）

を明記し、送料相当額（510円）の切手を貼ってください。

# アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置 Location of the Okinawa Prefectural University of Arts



OKINAWA



未来をつむぐ、伝統をつくる。



〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地  
TEL 098-882-5000 (代表) FAX 098-882-5033